

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J001	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題1	神経筋接合部(運動終板)が存在するのはどれか。 1.骨格筋 2.心筋 3.平滑筋 4.筋膜	1	必修
2006 J002	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題2	関節をつくる組合せはどれか。 1.後頭骨 軸椎 2.鎖骨 上腕骨 3.上腕骨 様骨 4.仙骨 耻骨	3	必修
2006 J003	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題3	僧帽弁はどれか。 1.右房室弁 2.左房室弁 3.肺動脈弁 4.大動脈弁	2	必修
2006 J004	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題4	運動神経細胞が分布するのはどれか。 1.脊髄前角 2.脊髄後角 3.脊髄神経節 4.交感神経節	1	必修
2006 J005	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題5	正常の心拍動における歩調とり部位はどれか。 1.脚 2.洞房結節 3.房室結節 4.ブルキン工線維	2	必修
2006 J006	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題6	ステロイドホルモンでないのはどれか。 1.インスリン 2.エストロジエン 3.アンドロジエン 4.コルチゾン	1	必修
2006 J007	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題7	副交感神経が興奮した時に起こる反応はどれか。 1.心拍出量の増加 2.気管支の拡張 3.腸管運動の促進 4.瞳孔の散大	3	必修
2006 J008	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題8	足関節の伸展(背屈)に作用するのはどれか。 1.長腓骨筋 2.前脛骨筋 3.腓腹筋 4.後脛骨筋	2	必修
2006 J009	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題9	正しいのはどれか。 1.創傷治癒では瘢痕形成後に肉芽組織が形成される。 2.肉芽組織には神経細胞増生が起こる。 3.創傷治癒では脂肪化から瘢痕となり治癒する。 4.肉芽組織には多数の毛細血管の新生が起こる。	4	必修
2006 J010	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題10	皮膚面の消毒に適さないのはどれか。 1.塩化ベンゼトニウム 2.塩化ベンザルコニウム 3.次亜鉛素酸ナトリウム 4.グルコン酸クロルヘキシジン	3	必修
2006 J011	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題11	施術所の構造設備基準で正しいのはどれか。 1.7.7平方メートル以上の専用の施術室 2.5.5平方メートル以上の待合室 3.施術室は、室面積6分の1以上に相当する面積を外気に開放 4.器具、手指等の消毒設備の設置	4	必修
2006 J012	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題12	補装具の目的で適切でないのはどれか。 1.変形の矯正 2.局所の免荷 3.麻痺の回復 4.機能の補助	3	必修
2006 J013	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題13	後遺症としてマン・ウェルニッケ姿勢が最もよくみられるのはどれか。 1.髄膜炎 2.脳血管障害 3.脊髄腫瘍 4.破傷風	2	必修
2006 J014	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題14	バビンスキー反射がみられる病変部位はどれか。 1.脊髄前角 2.第1次感覚ニューロン 3.錐体路 4.脊髄後索	3	必修

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J015	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題15	59歳の男性。1年前に小さな脳動脈瘤を指摘された。今朝、突然後ろから金づちで殴られたような激しい頭痛が出現した。考えられるのはどれか。 1. 脳内出血 2. くも膜下出血 3. 硬膜外血腫 4. 脳梗塞	2	必修
2006 J016	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題16	筋挫傷で正しいのはどれか。 1. 筋肉・筋膜組織の部分皮下断裂である。 2. 保存治療では筋組織伸張位で固定を行う。 3. 自発的な筋収縮では生じない。 4. 神経損傷を合併することが多い。	1	必修
2006 J017	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題17	骨折の固有症状はどれか。 1. 限局性圧痛 2. 患部の腫脹 3. 外観の変形 4. 感覚異常	3	必修
2006 J018	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題18	脱臼でみられないのはどれか。 1. 関節腔の空虚 2. 介達痛 3. 関節部の変形 4. 異常可動性	4	必修
2006 J019	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題19	骨端軟骨損傷後の経過で最も注意を要するのはどれか。 1. 過剰仮骨形成 2. 骨の成長障害 3. 無腐性骨壊死 4. ズデック(Sudeck)骨萎縮	2	必修
2006 J020	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題20	骨折の癒合に有利な条件はどれか。 1. 細密質が多い部位の骨折 2. 骨折端の広い離開 3. 噫合した骨折 4. 関節内の骨折	3	必修
2006 J021	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題21	骨折整復の一般原則で誤っているのはどれか。 1. 長骨骨折では、遠位骨片の長軸方向に十分な牽引力を加える。 2. 骨片転位を生理的状態に復する方向に力を加える。 3. 小児では骨膜損傷を把握し、損傷していない骨膜を利用する。 4. 近位骨片の位置に応じて遠位骨片を合わせる。	1	必修
2006 J022	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題22	脱臼の徒手整復で誤っているのはどれか。 1. 槓杆作用を応用する。 2. 筋緊張を取り除くことが重要である。 3. ポタン穴状態は整復障害となる。 4. 骨折が合併するときは骨折から整復する。	4	必修
2006 J023	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題23	骨折の後療法で誤っているのはどれか。 1. 整復・固定処置後、速やかに開始する。 2. 固定中、固定されない関節の自動運動は積極的に行う。 3. 固定除去後、拘縮した関節は早期に他動的な矯正を行う。 4. 温熱療法は運動療法の補助として行う。	3	必修
2006 J024	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題24	骨折の合併症とその原因との組合せで正しいのはどれか。 1. 骨髓炎 開放性骨折 2. 関節拘縮 早期固定除去 3. 骨癒合遅延 長期間固定 4. 過剰仮骨形成 関節内骨折	1	必修
2006 J025	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題25	介達外力で発生するのはどれか。 1. 頭蓋骨の陥没骨折 2. 上腕骨骨幹部捻転骨折 3. 肘頭の粉碎骨折 4. 肩甲骨体部骨折	2	必修
2006 J026	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題26	鎖骨骨折で誤っているのはどれか。 1. 青壮年期の骨折は第3骨片を形成しやすい。 2. 幼少年期の骨折は若木骨折になりやすい。 3. 青壮年期の変形治癒は重度の機能障害を残しやすい。 4. 幼少年期の変形治癒は成長と共に矯正されやすい。	3	必修
2006 J027	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題27	上腕骨顆上伸展型骨折で正しいのはどれか。 1. 肘関節部に後方凸の屈曲力が作用して発生する。 2. 骨折線は後方から前上方に向って走行する。 3. 内旋位の残存は内反肘変形を引き起こす。 4. 関節内骨折のため偽関節が好発する。	3	必修

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J028	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題28	肩鎖関節脱臼で誤っているのはどれか。 1. 烏口鎖骨韌帯の断裂は第Ⅰ型である。 2. 反跳症状がみられる。 3. 肩関節外転制限がみられる。 4. 鎖骨外端骨折との鑑別を要する。	1	必修
2006 J029	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題29	大腿骨頸部内側骨折で正しいのはどれか。 1. 外転型骨折が多い。 2. 内転型では骨折部に圧迫力が働く。 3. 骨頭に血行障害を生じる。 4. 広範な腫脹を生じる。	3	必修
2006 J030	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題30	習慣性膝蓋骨脱臼発生の素因でないのはどれか。 1. 内反膝 2. 大腿骨頸部形成不全 3. 膝蓋骨高位 4. 全身性関節弛緩	1	必修
2006 J031	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題31	血液中の白血球で最も多のが多いのはどれか。 1. 好酸球 2. 好中球 3. リンパ球 4. 単球	2	解剖学
2006 J032	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題32	腱の主成分はどれか。 1. 線維軟骨 2. 弾性軟骨 3. 弾性線維 4. 膠原線維	4	解剖学
2006 J033	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題33	長骨で長軸方向に走行するのはどれか。 1. ハバース管 2. フォルクマン管 3. 栄養管 4. シャーピー線維	1	解剖学
2006 J034	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題34	結合組織性骨化(膜性骨化)するのはどれか。 1. 上腕骨 2. 鎖骨 3. 肩甲骨 4. 胸骨	2	解剖学
2006 J035	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題35	下顎骨の運動を行うのはどれか。 1. 前頭筋 2. 側頭筋 3. 後頭筋 4. 脣鎖乳突筋	2	解剖学
2006 J036	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題36	横隔膜について誤っているのはどれか。 1. 腰椎、肋骨および胸骨から起る。 2. 呼吸の際に吸気筋として働く。 3. 下行大動脈、下大静脈および食道が貫いている。 4. 肋間神経に支配されている。	4	解剖学
2006 J037	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題37	上腕骨で尺骨神経溝が存在する部位はどこか。 1. 三角筋粗面付近 2. 肘頭窓の外側縁 3. 外側上顆の前面 4. 内側上顆の後面	4	解剖学
2006 J038	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題38	肩関節の回旋筋腱板の形成に関与するのはどれか。 1. 大胸筋 2. 小胸筋 3. 大円筋 4. 肩甲下筋	4	解剖学
2006 J039	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題39	小坐骨孔を通過するのはどれか。2つ選べ。 1. 内閉鎖筋 2. 大腿方形筋 3. 坐骨神経 4. 陰部神経	14	解剖学
2006 J040	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題40	膝関節の関節包と固く付いているのはどれか。 1. 膝蓋韌帯 2. 内側副韌帯 3. 外側副韌帯 4. 前十字韌帯	2	解剖学
2006 J041	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題41	腱索と連結るのはどれか。 1. 大動脈弁 2. 肺動脈弁 3. 静脈弁 4. 三尖弁	4	解剖学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J042	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題42	大動脈から最も遠位で出るのはどれか。 1. 左冠状動脈 2. 左総頸動脈 3. 左鎖骨下動脈 4. 腕頭動脈	3	解剖学
2006 J043	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題43	誤っているのはどれか。 1. リンパ管には弁が多い。 2. 胸管は右静脈角に注ぐ。 3. 腋窩リンパ節は乳房のリンパを受け入れる。 4. 鼠径リンパ節は下肢のリンパを受け入れる。	2	解剖学
2006 J044	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題44	回腸にみられないのはどれか。 1. オッディの括約筋 2. リーベルキューン腺 3. パイエル板 4. アウエルバッハの神経叢	1	解剖学
2006 J045	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題45	肝門を通らないのはどれか。 1. 肝管 2. 固有肝動脈 3. 肝静脈 4. 門脈	3	解剖学
2006 J046	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題46	間膜があるのはどれか。 1. 食道 2. 脾臓 3. 肝臓 4. 上行結腸	3	解剖学
2006 J047	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題47	正しいのはどれか。 1. 気管は食道の後ろを通る。 2. 気管軟骨は気管の全周をとり囲む。 3. 右気管支は左気管支よりも細い。 4. 右気管支は左気管支よりも垂直に近い。	4	解剖学
2006 J048	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題48	尿道が貫通または開口しないのはどれか。 1. 前立腺 2. 尿生殖隔膜 3. 陰茎海綿体 4. 膀胱前庭	3	解剖学
2006 J049	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題49	鼠径管を通らないのはどれか。 1. 精管 2. 卵管 3. 精巣動脈 4. 子宮円索	2	解剖学
2006 J050	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題50	カルシトニンを分泌するのはどれか。 1. 下垂体 2. 松果体 3. 甲状腺 4. 上皮小体	3	解剖学
2006 J051	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題51	脳の表面から観察できないのはどれか。 1. 視交叉 2. 錐体 3. 海馬 4. オリーブ	3	解剖学
2006 J052	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題52	中脳に神経核が存在するのはどれか。 1. 顔面神経 2. 舌下神経 3. 動眼神経 4. 迷走神経	3	解剖学
2006 J053	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題53	腕神経叢の枝が支配するのはどれか。 1. 胸鎖乳突筋 2. 大円筋 3. 外肋間筋 4. 横隔膜	2	解剖学
2006 J054	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題54	大腿神経が支配するのはどれか。 1. 外閉鎖筋 2. 耻骨筋 3. 長内転筋 4. 薄筋	2	解剖学
2006 J055	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題55	誤っているのはどれか。 1. 鼓膜は外耳と中耳の間にある。 2. 中耳は喉頭と連絡している。 3. 中耳には3つの耳小骨がある。 4. 内耳は側頭骨の錐体の中にある。	2	解剖学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J056	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題56	コルチ器があるのはどれか。 1.皮膚 2.眼球 3.内耳 4.鼻腔	3	解剖学
2006 J057	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題57	味蕾が存在しないのはどれか。 1.糸状乳頭 2.蕈状乳頭 3.葉状乳頭 4.有郭乳頭	1	解剖学
2006 J058	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題58	体表から触知できないのはどれか。 1.橈側手根屈筋 2.尺側手根屈筋 3.円回内筋 4.方形回内筋	4	解剖学
2006 J059	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題59	神経と通過部位との組合せで正しいのはどれか。 1.大腿神経 膝窩部 2.脛骨神経 内果の後方 3.浅腓骨神経 伸筋支帯の深部 4.深腓骨神経 外果の後方	2	解剖学
2006 J060	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題60	大汗腺(アポクリン汗腺)が多く分布するのはどれか。 1.鼻翼 2.腋窩 3.手掌 4.手背	2	解剖学
2006 J061	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題61	肥満細胞と結合する免疫グロブリンはどれか。 1.IgA 2.IgE 3.IgG 4.IgM	2	生理学
2006 J062	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題62	線維素溶解現象を引き起こすのはどれか。 1.プラスミン 2.フィブリノゲン 3.トロンボプラスチン 4.プロトロンビン	1	生理学
2006 J063	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題63	抵抗血管はどれか。 1.大静脈 2.毛細血管 3.大動脈 4.細動脈	4	生理学
2006 J064	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題64	収縮期血圧140mmHg、拡張期血圧80mmHgのときの平均血圧はどれか。 1.90mmHg 2.100mmHg 3.110mmHg 4.120mmHg	2	生理学
2006 J065	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題65	呼息時の肺胞内圧と胸膜腔内圧との組合せで正しいのはどれか。 肺胞内圧 胸膜腔内圧 1.陽圧 陽圧 2.陽圧 陰圧 3.陰圧 陽圧 4.陰圧 陰圧	2	生理学
2006 J066	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題66	肺の伸展受容器からの求心性インパルスによって吸息が抑制されるのはどれか。 1.クッシング反射 2.ファーガソン反射 3.ペインプリッジ反射 4.ヘリング・プロイヤー反射	4	生理学
2006 J067	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題67	誤っている組合せはどれか。 1.アミラーゼ 唾液 2.ペプシン 胃液 3.キモトリプシン 膵液 4.マルターゼ 小腸液	4	生理学
2006 J068	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題68	ミセルを形成して吸収されるのはどれか。 1.ビタミンC 2.ブドウ糖 3.脂肪酸 4.アミノ酸	3	生理学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J069	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題69	セクレチンによって分泌が起こるのはどれか。 1.唾液 2.胃液 3.胰液 4.大腸液	3	生理学
2006 J070	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題70	体温調節に関係しないのはどれか。 1.対向流熱交換系 2.手掌の汗腺 3.視床下部前部 4.交感神経	2	生理学
2006 J071	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題71	バゾプレッシンの作用部位はどれか。 1.近位尿細管 2.ヘレンの係蹄 3.遠位尿細管 4.集合管	4	生理学
2006 J072	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題72	受容体が細胞内にあるのはどれか。 1.アルドステロン 2.アドレナリン 3.グルカゴン 4.カルシトニン	1	生理学
2006 J073	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題73	血圧調節に関係しないのはどれか。 1.パラソルモン 2.バゾプレッシン 3.アンギオテンシン 4.アルドステロン	1	生理学
2006 J074	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題74	血糖調節に関係しないのはどれか。 1.オキシトシン 2.コルチゾン 3.グルカゴン 4.インスリン	1	生理学
2006 J075	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題75	活動電位の伝導が最も早いのはどれか。 1.直径15μmの無髓神経線維 2.直径15μmの有髓神経線維 3.直径5μmの無髓神経線維 4.直径5μmの有髓神経線維	2	生理学
2006 J076	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題76	運動ニューロンについて正しいのはどれか。 1.細胞体は脊髄の白質にある。 2.軸索は後根を通る。 3.1本の筋線維とシナプスをつくる。 4.a線維とシナプスをつくる。	4	生理学
2006 J077	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題77	ムスカリーン受容体があるのはどれか。 1.交感神経節後ニューロン 2.副交感神経節後ニューロン 3.消化管平滑筋 4.骨格筋	3	生理学
2006 J078	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題78	視床下部にあるのはどれか。 1.呼吸中枢 2.嘔吐中枢 3.血管運動中枢 4.摂食中枢	4	生理学
2006 J079	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題79	脊髄反射はどれか。 1.角膜反射 2.前庭眼球反射 3.伸張反射 4.緊張性迷路反射	3	生理学
2006 J080	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題80	受容体に結合して骨格筋に活動電位を発生させるのはどれか。 1.アセチルコリン 2.ノルアドレナリン 3.クラーレ 4.セロトニン	1	生理学
2006 J081	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題81	骨格筋が収縮するとき直接のエネルギー源となるのはどれか。 1.クレアチニンリシン酸 2.アデノシン3リシン酸 3.グリコーゲン 4.乳酸	2	生理学
2006 J082	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題82	誤っている組合せはどれか。 1.毛様体 遠近調節 2.杆状体 中心窓 3.錐状体 ヨドブシン 4.水晶体 光屈折	2	生理学

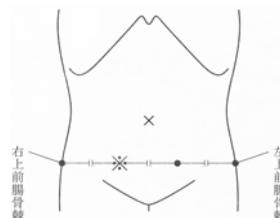
No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J083	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題83	平衡感覚と関係しないのはどれか。 1. 蝸牛管 2. 半規管 3. 卵形囊 4. 球形囊	1	生理学
2006 J084	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題84	誤っている組合せはどれか。 1. 触覚 マイスネル小体 2. 深部感覚 筋紡錘 3. 温覚 ルフィニ小体 4. 痛覚 自由神経終末	3	生理学
2006 J085	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題85	妊娠初期に胎盤から多量に分泌されるのはどれか。 1. エストリオール 2. ブレグナンジオール 3. ヒト緑毛性ゴナドロビン(hCG) 4. ヒト緑毛性乳腺刺激ホルモン(hCS)	3	生理学
2006 J086	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題86	誤っている組合せはどれか。 1. 第1のてこ 上腕三頭筋による肘伸展 2. 第1のてこ 大腿四頭筋による膝伸展 3. 第3のてこ 上腕二頭筋による肘屈曲 4. 第3のてこ 三角筋による肩外転	2	運動学
2006 J087	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題87	下り階段でゆっくりと左脚を降ろすとき、右脚の大腿四頭筋の収縮はどれか。 1. 求心性収縮 2. 遠心性収縮 3. 等尺性収縮 4. 相動性収縮	2	運動学
2006 J088	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題88	肩関節の伸展に作用するのはどれか。 1. 棘上筋 2. 小円筋 3. 肩甲下筋 4. 広背筋	4	運動学
2006 J089	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題89	股関節の伸展に作用しないのはどれか。 1. 大腿二頭筋 2. 大殿筋 3. 大腿筋膜張筋 4. 半腱様筋	3	運動学
2006 J090	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題90	足部の外がえしに作用するのはどれか。 1. 長腓骨筋 2. 後脛骨筋 3. 長指屈筋 4. 足底筋	1	運動学
2006 J091	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題91	筋紡錘に入出力しない神経線維はどれか。 1. 運動線維 2. 運動線維 3. a群線維 4. 群線維	1	運動学
2006 J092	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題92	膝蓋腱反射について誤っているのはどれか。 1. 伸張反射である。 2. 相反性神経支配がある。 3. 表在反射である。 4. 脊髄に反射中枢がある。	3	運動学
2006 J093	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題93	基本的立位姿勢で誤っているのはどれか。 1. 重心線は第4腰椎体の後方を通る。 2. 重心線は足関節の前方を通る。 3. 重心線は支持基底内の中心に近いほど安定性がよい。 4. 重心はたえず動搖している。	1	運動学
2006 J094	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題94	正常新生児にみられないのはどれか。 1. モロー反射 2. ガラント反射 3. 交差性伸展反射 4. ランドウ反射	4	運動学
2006 J095	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題95	運動力学的歩行分析はどれか。 1. 速度 2. 関節可動域 3. 床反力 4. 歩幅	3	運動学
2006 J096	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題96	グロコット染色で黒色に染まるのはどれか。 1. 結核菌 2. 大腸菌 3. 真菌 4. ブドウ球菌	3	病理学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J097	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題97	分泌過剰で満月様顔貌、高血圧および多毛となるのはどれか。 1. コルチゾン 2. インスリン 3. 成長ホルモン 4. 甲状腺ホルモン	1	病理学
2006 J098	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題98	石綿(アスベスト)を長期間吸入することで起こるのはどれか。 1. 炭粉症 2. 珪肺症 3. 悪性中皮腫 4. 骨軟化症	3	病理学
2006 J099	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題99	うっ血と関係ない変化はどれか。 1. 心不全細胞 2. 水腎症 3. にくずく肝 4. メズサの頭	2	病理学
2006 J100	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題100	最も多い塞栓はどれか。 1. 腫瘍 2. 血栓 3. 空気 4. 脂肪	2	病理学
2006 J101	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題101	仮性肥大がみられるのはどれか。 1. 進行性筋ジストロフィーの腓腹筋 2. 高血圧症の心筋 3. 片方が機能不全に陥ったときの残った腎臓 4. 前立腺肥大	1	病理学
2006 J102	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題102	組織内異物の処理でないのはどれか。 1. 排除 2. 器質化 3. 被包 4. 化生	4	病理学
2006 J103	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題103	炎症について正しいのはどれか。 1.漿液性炎は液性成分の滲出を主成分とする。 2.線維素炎は粘液成分の亢進が著しい。 3.カタル性炎は大量の好中球を含む。 4.化膿性炎は腐敗菌の感染による著しい組織の壊死を生じる。	1	病理学
2006 J104	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題104	サイトカインでないのはどれか。 1. インターロイキン 2. インターフェロン 3. コロニー刺激因子 4. ヒスタミン	4	病理学
2006 J105	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題105	正しい組合せはどれか。 1. 型アレルギー 免疫複合体病 2. 型アレルギー 細胞傷害型反応 3. 型アレルギー アナフィラキシー反応 4. 型アレルギー 花粉症	2	病理学
2006 J106	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題106	誤っている組合せはどれか。 1. 肝細胞癌 フェトプロテイン 2. 膵癌 CA 19-9 3. 悪性黒色腫 ヒト絨毛性ゴナドトロピン(hCG) 4. 大腸癌 胎児性癌抗原(CEA)	3	病理学
2006 J107	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題107	常染色体異常による疾患はどれか。 1. ターナー(Turner)症候群 2. クラインフェルター(Klinefelter)症候群 3. 血友病 4. ダウン(Down)症候群	4	病理学
2006 J108	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題108	奇形の原因となるのはどれか。2つ選べ。 1. サリドマイド 2. 風疹 3. インフルエンザ 4. 炭粉	12	病理学
2006 J109	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題109	WHO憲章前文の健康の定義で誤っているのはどれか。 1. 障害を持っていても社会人として共存できる状況 2. それぞれの国の実情に応じた健康享受の権利 3. 健康づくり活動を通じて世界平和を目標に共存 4. 身体的に、精神的に、社会的に調和のとれた良好な状態	2	衛生学・ 公衆衛生学
2006 J110	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題110	住居環境について誤っているのはどれか。 1. 室内の二酸化炭素濃度が0.1%を超えたら換気をする。 2. 冬期の室内温度22~23℃に設定する。 3. 昼光率は1%以上あれば良好である。 4. 室内気流をアスマン通風乾湿温度計を使い測定する。	4	衛生学・ 公衆衛生学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J111	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題111	水道法による水質基準について誤っているのはどれか。 1. 硝酸性および亜硝酸性窒素は、し尿由来の有機物汚染の指標である。 2. 大腸菌群は病原性微生物汚染の指標である。 3. 塩素イオンは消毒に使われた塩素濃度の指標である。 4. 過マンガン酸カリウム消費量は有機物汚染の指標である。	1	衛生学・ 公衆衛生学
2006 J112	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題112	自動車が主要発生源となっている大気汚染物質はどれか。 1. 二酸化いおう 2. 石綿(アスベスト) 3. ダイオキシン 4. 窒素酸化物	4	衛生学・ 公衆衛生学
2006 J113	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題113	フロンガス空中放出に伴い増加が予想されるのはどれか。 1. 皮膚癌 2. 肺癌 3. 肝臓癌 4. 大腸癌	1	衛生学・ 公衆衛生学
2006 J114	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題114	予防医学の概念における第二次予防はどれか。 1. 機能訓練 2. 健康診断 3. 禁煙運動 4. 予防接種	2	衛生学・ 公衆衛生学
2006 J115	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題115	母子保健の水準を示す指標はどれか。 1. 年齢調整死亡率 2. 出生率 3. 周産期死亡率 4. 年少人口指数	3	衛生学・ 公衆衛生学
2006 J116	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題116	学校保健について正しいのはどれか。 1. 学校保健法における健康診断の対象に教職員が含まれる。 2. 小学校の定期健康診断で被患率が最も高いのは近視である。 3. 学校医は学校伝染病に罹患した児童生徒の出席を停止できる。 4. 学校保健法の対象は小学校、中学校および高等学校である。	1	衛生学・ 公衆衛生学
2006 J117	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題117	食品衛生について正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 栄養指導の基準である栄養所要量は毎年改定される。 2. 食品衛生監視員が食品関係営業施設の監視や指導を行う。 3. 食品への有害物混入による健康被害は食中毒に分類される。 4. 黄色フドウ球菌による食中毒は食品の加熱処理で防止できる。	23	衛生学・ 公衆衛生学
2006 J118	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題118	誤っている組合せはどれか。 1. 単純ヘルペスウイルス 角膜炎 2. HHV-6 突発性発疹 3. EBウイルス 伝染性単核球症 4. サイトメガロウイルス 亜急性硬化性全脳炎	4	衛生学・ 公衆衛生学
2006 J119	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題119	トキソイドワクチンが用いられるのはどれか。2つ選べ。 1. 麻疹 2. ジフテリア 3. 流行性耳下腺炎 4. 破傷風	24	衛生学・ 公衆衛生学
2006 J120	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午前】問題120	医療器具(金属)の消毒に適さないのはどれか。 1. エタノール 2. グルコン酸クロルヘキシジン 3. ポビドンヨード 4. グルタルアルデヒド	3	衛生学・ 公衆衛生学
2006 J121	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題1	柔道整復師の免許で正しいのはどれか。 1. 日本国籍を有しなければならない。 2. 更新制度はない。 3. 免許証を持しなければ業はできない。 4. 免許を取り消されたら再免許は与えられない。	2	関係法規
2006 J122	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題2	柔道整復師の行為で正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 脱臼をしていたので、整形外科医を紹介した。 2. 捻挫した患部に施術を行った。 3. 骨折した患者に経口鎮痛薬を投与した。 4. 施術の効果をあげる目的で鍼・灸を行った。	12	関係法規
2006 J123	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題3	柔道整復師の業務で正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 医師の指示で外科手術の補助を業としている。 2. 骨折の患部に応急手当を行った。 3. 患部の状態を知るために、自らエックス線単純撮影を行った。 4. 患部の状態を知るために、自ら触診を行った。	24	関係法規
2006 J124	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題4	医師の同意について正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 打撲の施術には必要としない。 2. 医師には歯科医師が含まれる。 3. 同意があれば放射線の人体への照射ができる。 4. 骨折の施術には必要とする。	14	関係法規

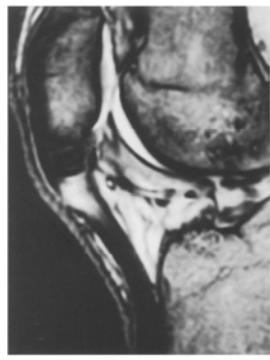
No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J125	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題5	守秘義務で正しいのはどれか。 1. 疾病に関する内容に限られる。 2. 業務外で知り得た内容も同様の義務である。 3. 秘密とは他に漏れると本人の不利益になるものである。 4. 一般的に知られている内容も含む。	3	関係法規
2006 J126	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題6	都道府県知事が施術所の開設者に命ずることができるのはどれか。 1. 保険診療を行わせる。 2. 施術所で業務に従事する柔道整復師の採用方法について報告させる。 3. 開設者の経歴を広告させる。 4. 立入検査に基づいて設備を改善させる。	4	関係法規
2006 J127	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題7	正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 憲法に定める天皇の国事行為は国会の承認を要する。 2. 条約の承認は内閣の決定による。 3. 法律とは国会の議決を通した成文法である。 4. 厚生労働省令は命令に含まれる。	34	関係法規
2006 J128	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題8	医療法で定められている事柄について誤っているのはどれか。 1. 医療は、国民自らの健康の保持のための努力を基礎とする。 2. 都道府県は、医療を提供する体制の確保に関する計画を定める。 3. 適切な説明は、医療の担い手のうち医師が行わなければならない。 4. 医療の担い手は、良質かつ適切な医療を行うよう努めなければならない。	3	関係法規
2006 J129	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題9	医療提供機関の定義で入院患者の収容人数について、正しい組合せはどれか。 1. 診療所 10人以上 2. 病院 20人以上 3. 特定機能病院 200人以上 4. 地域医療支援病院 300人以上	2	関係法規
2006 J130	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題10	理学療法士の業務でないのはどれか。 1. 治療体操 2. マッサージ 3. 電気刺激 4. 骨折の整復	4	関係法規
2006 J131	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題11	リハビリテーションの考え方で適切でないのはどれか。 1. 疾病が治癒してから開始する。 2. 傷害の原因となる疫病を防ぐ。 3. 障害を予測し、その軽減を図る。 4. 生活の質の向上をめざす。	1	リハビリ 医学
2006 J132	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題12	職種とその役割との組合せで誤っているのはどれか。 1. 義肢装具士 装具処方 2. 理学療法士 運動療法 3. 作業療法士 日常生活活動訓練 4. 言語聴覚士 嘔下訓練	1	リハビリ 医学
2006 J133	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題13	障害の3つのレベルで能力低下に分類されるのはどれか。 1. 関節拘縮 2. 失語症 3. 就労困難 4. 歩行困難	4	リハビリ 医学
2006 J134	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題14	肩関節の関節可動域測定で正しいのはどれか。 1. 伸展は腹臥位で測定する。 2. 屈曲は肘関節伸展位で測定する。 3. 内外旋の移動軸は上腕骨に一致させる。 4. 水平屈曲の参考可動域は90度である。	2	リハビリ 医学
2006 J135	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題15	温熱療法の局所作用で誤っているのはどれか。 1. 代謝亢進 2. 血流増加 3. 筋緊張の緩和 4. 疼痛閾値の低下	4	リハビリ 医学
2006 J136	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題16	間欠牽引療法で誤っているのはどれか。 1. 軟部組織の伸張を目的とする。 2. 転移性脊椎腫瘍には禁忌である。 3. 頸椎牽引の重量の目安は体重の1/2である。 4. 1回の治療時間は10~20分とする。	3	リハビリ 医学
2006 J137	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題17	作業療法の内容で適切でないのはどれか。 1. 義手訓練 2. 精神の活性化 3. 身体機能低下の改善 4. 職業訓練	4	リハビリ 医学
2006 J138	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題18	歩行補助具でないのはどれか。 1. T字つえ 2. ロフストランドクラッチ 3. 歩行器 4. 車いす	4	リハビリ 医学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J139	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題19	脳卒中片麻痺患者の合併症で生命予後に影響するのはどれか。 1. 視床痛 2. 深部静脈血栓症 3. 肩手症候群 4. 異所性骨化	2	リハビリ 医学
2006 J140	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題20	35歳の男性。オートバイ事故により頸髄損傷、完全四肢麻痺となった。頸椎固定術後に早期リハビリテーションを開始したが、座位訓練を行ったところ意識が混濁し、臥位に戻すと回復した。原因として考えられるのはどれか。 1. 自律神経過反射 2. 不整脈 3. 起立性低血压 4. 痙攣発作	3	リハビリ 医学
2006 J141	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題21	アテトーゼ型脳性麻痺の特徴はどれか。 1. 瘻縮 2. 不随意運動 3. 運動失調 4. 感覚障害	2	リハビリ 医学
2006 J142	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題22	女性に多い疾患はどれか。 1. 痛風 2. 強直性脊椎炎 3. 全身性エリテマトーデス 4. 悪性関節リウマチ	3	一般臨床 医学
2006 J143	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題23	症候性肥満をきたすのはどれか。 1. アジソン(Addison)病 2. クッシング(Cushing)症候群 3. 甲状腺機能亢進症 4. 神経性食思不振症	2	一般臨床 医学
2006 J144	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題24	精神発達に遅れがみられるのはどれか。 1. くる病 2. クレチン病 3. 骨・軟骨異常症 4. 下垂体性小人症	2	一般臨床 医学
2006 J145	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題25	「握った手をすぐに開くことが出来ない」という病態はどれか。 1. ミオトニア 2. ジスキネジア 3. テタニー 4. ジストニア	1	一般臨床 医学
2006 J146	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題26	チアノーゼがみられるのはどれか。 1. ファロー(Fallot)四徴症 2. 心房中隔欠損症 3. 大動脈弁狭窄症 4. 僧帽弁閉鎖不全症	1	一般臨床 医学
2006 J147	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題27	誤っている組合せはどれか。 1. チアノーゼ 2. スプーン状爪 3. 太鼓バチ指 4. ヘバーデン結節 心不全 鉄欠乏性貧血 肺気腫 関節リウマチ	4	一般臨床 医学
2006 J148	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題28	末梢性顔面神経麻痺にみられるのはどれか。 1. 線維 2. 複視 3. 眼振 4. ベル現象	1	一般臨床 医学
2006 J149	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題29	図の○で示す急性虫垂炎の圧痛点はどれか。 1. ボアス(Boas)点 2. ムンロー(Munro)点 3. ランツ(Lanz)点 4. マックバーネー(McBurney)点	3	一般臨床 医学
2006 J150	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題30	徐脈になるのはどれか。 1. アダムス・ストーカス(Adams-Stokes)症候群 2. バセドウ(Basedow)病 3. 発熱 4. 貧血	1	一般臨床 医学
2006 J151	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題31	高熱と発熱のない時期が周期的にみられるのはどれか。 1. 肝腫瘍 2. 腸チフス 3. 敗血症 4. マラリア	4	一般臨床 医学

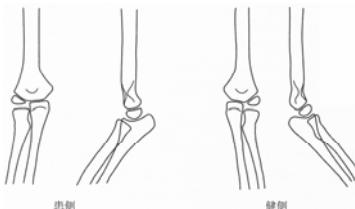


No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J152	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題32	肝硬変の所見でないのはどれか。 1. くも状血管腫 2. 食道静脈瘤 3. 血小板減少 4. 高コレステロール血症	4	一般臨床医学
2006 J153	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題33	気管支喘息について誤っているのはどれか。 1. 経過の長い患者では発作時に樽状胸がみられる。 2. 重積発作では呼吸音は減弱する。 3. 肺機能検査における1秒率の低下は不可逆的である。 4. 閉塞性換気障害である。	3	一般臨床医学
2006 J154	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題34	肺のブラが破裂して発症するのはどれか。 1. 気管支喘息 2. 自然気胸 3. 肺癌 4. 肺線維症	2	一般臨床医学
2006 J155	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題35	46歳の女性。子宮筋腫があり、生理が不順である。坂道をのぼるときに息切れがする。血液検査で小球性低色素性貧血が認められる。考えられるのはどれか。 1. 悪性貧血 2. 再生不良性貧血 3. 鉄欠乏性貧血 4. 溶血性貧血	3	一般臨床医学
2006 J156	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題36	周期性四肢麻痺がみられるのはどれか。2つ選べ。 1. 原発性アルドステロン症 2. 褐色細胞腫 3. パセドウ(Basedow)病 4. アジソン(Addison)病	13	一般臨床医学
2006 J157	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題37	55歳の女性。半年前から全身倦怠感、嘔吐、下腿に圧痕を残さない浮腫がみられ、最近1か月で5kgの体重増加を認めた。20歳代に甲状腺機能亢進症の治療歴がある。考えられるのはどれか。 1. パセドウ(Basedow)病 2. 橋本病 3. ネフローゼ症候群 4. 肝硬変	2	一般臨床医学
2006 J158	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題38	関節リウマチの症状でないのはどれか。 1. スワンネック変形 2. 皮下結節 3. 肺線維症 4. 僧帽弁閉鎖不全症	4	一般臨床医学
2006 J159	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題39	関節リウマチで罹患しやすいのはどれか。 1. 頸椎環軸関節 2. 腰椎椎間関節 3. 胸肋関節 4. 遠位指節間(DIP)関節	1	一般臨床医学
2006 J160	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題40	ネフローゼ症候群にみられないのはどれか。 1. 蛋白尿 2. 高蛋白血症 3. 高脂血症 4. 浮腫	2	一般臨床医学
2006 J161	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題41	脳塞栓の発症に重要なのはどれか。 1. 心房細動 2. 糖尿病 3. 高脂血症 4. 高血圧症	1	一般臨床医学
2006 J162	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題42	筋萎縮性側索硬化症で正しいのはどれか。 1. 女性に多い。 2. 高齢者の発症は少ない。 3. 下肢から発症する例がある。 4. 終末期には眼球運動も傷害される。	3	一般臨床医学
2006 J163	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題43	アルツハイマー(Alzheimer)病の病初期の特徴はどれか。 1. 反社会的行為 2. 計算障害 3. 記憶力障害 4. 不随意運動	3	一般臨床医学
2006 J164	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題44	熱傷で正しいのはどれか。 1. 凍傷は低温熱傷である。 2. 热傷は皮膚損傷の面積によって～度に分類される。 3. 乳幼児の熱傷面積の概算には「9の法則」を用いる。 4. 広範囲熱傷患者のストレス潰瘍をカーリング(Curling)潰瘍という。	4	外科学概論

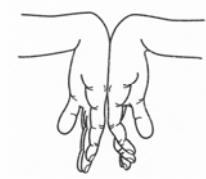
No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J165	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題45	急性炎症の四主徴でないのはどれか。 1. 発赤 2. 肿脹 3. 渗出 4. 疼痛	3	外科学概論
2006 J166	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題46	リンパ行性転移はどれか。 1. ウィルヒョウ(Virchow)転移 2. 大腸癌の肝転移 3. シュニツツラー(Schnitzler)転移 4. 髄膜癌腫症	1	外科学概論
2006 J167	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題47	夏の炎天下でテニスをしていて、めまいを生じ、顔面蒼白となり倒れた。処置として適切でないのはどれか。 1. 涼しい場所に運び、衣服をゆるめて寝かせる。 2. 水や濡れタオルをかけ扇ぐ。 3. 頸・腋窩・鼠径部を冷やす。 4. 冷たい水を飲ませる。	4	外科学概論
2006 J168	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題48	CT施術中、造影剤を注入したところ、収縮期血圧80mmHg以下となり意識混濁を生じた。この病態で最も考えられるのはどれか。 1. 心原性ショック 2. 敗血症性ショック 3. アナフィラキシーショック 4. 出血性ショック	3	外科学概論
2006 J169	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題49	35歳の男性。乗用車を運転中に、交通事故で右側胸部をハンドルに強打した。意識は清明で目立った外傷はない。右側胸部に著明な疼痛があり、呼吸苦を訴えている。胸部単純エックス線検査で右の第7肋骨骨折と右肺の完全虚脱を認めた。行うべき治療はどれか。 1. 気管内挿管 2. 胸腔穿刺 3. 緊急開胸手術 4. 外固定による経過観察	2	外科学概論
2006 J170	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題50	正しいのはどれか。 1. 角膜移植では拒絶反応は起こらない。 2. 同種移植では組織適合性抗原がすべて同一である。 3. 同系移植では免疫抑制剤は不要である。 4. 黄色人種と白色人種の間での移植は異種移植である。	3	外科学概論
2006 J171	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題51	誤っている組合せはどれか。 1. 食道靜脈瘤破裂 ブレーキモアのチューブ 2. 急性動脈閉塞 フォーガティのカテーテル 3. 難治性鼻出血 ベロックのタンポン 4. 抱動性胃潰瘍出血 ゼラチンフォーム	4	外科学概論
2006 J172	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題52	頭部・顔面外傷で誤っている組合せはどれか。 1. 頭蓋底骨折 隹液鼻漏 2. 耳下腺部損傷 顔面神経麻痺 3. 顎骨弓骨折 開口障害 4. 脳実質損傷 急性硬膜外血腫	4	外科学概論
2006 J173	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題53	脳死判定規準に含まれないのはどれか。 1. 平坦脳波 2. 対光反射の消失 3. 四肢腱反射の消失 4. 深昏睡	3	外科学概論
2006 J174	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題54	胸部外傷で誤っているのはどれか。 1. flail chestでは奇異呼吸がみられる。 2. ショック肺は受傷直後から発症する。 3. 外開放性気胸では縱隔動搖がみられる。 4. 心タンポナーデでは頻脈がみられる。	2	外科学概論
2006 J175	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題55	正しいのはどれか。2つ選べ。 1. マルファン(Marfan)症候群は常染色体劣性遺伝である。 2. 軟骨無形成症はX脚変形が特徴的である。 3. モルキオ(Morquio)病は体幹短縮型の小人である。 4. エーラース・ダンロス(Ehlers-Danlos)症候群はコラーゲン合成の異常による。	34	整形外科学
2006 J176	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題56	離断性骨軟骨炎で正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 起炎菌はグラム陽性球菌である。 2. 病変は軟骨下骨に及ぶ。 3. 軟骨移植術は効果的である。 4. 高齢者に多く見られる。	23	整形外科学
2006 J177	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題57	骨端症で正しいのはどれか。 1. ペルテス(Perthes)病は若年発症者ほど予後が悪い。 2. ブラント(Blount)病は内反膝となる。 3. キーンベック(Kienbock)病は成長期男子に多い。 4. パンナー(Panner)病は手術を要する場合が多い。	2	整形外科学

No. code	問題no	問題	解答	科目	
2006 J178	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題58	悪性軟部腫瘍で最も発生頻度の高いのはどれか。 1. 平滑筋肉腫 2. 脂肪肉腫 3. 神経肉腫 4. 線維肉腫	2	整形外科学	
2006 J179	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題59	下垂体性小人症で正しいのはどれか。2つ選べ。 1. トルコ鞍部の腫瘍が原因 2. フレーリッヒ(Frohlich)型では骨成長の障害は軽度 3. 全身のプロポーションは正常 4. 骨端線は早期に閉鎖	13	整形外科学	
2006 J180	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題60	プロサッカー選手。1か月前から膝痛があり十分なプレーができない。膝蓋骨下端から膝蓋腱上部にかけて圧痛がある。MRI膝関節矢状断T2強調画像(別冊No.1)を別に示す。適切な治療法はどれか。 1. プレー直後の局所のアイシングと安静 2. ステロイド薬の局所注射 3. 手術による病的部位の切除・再縫合 4. 大腿から足部までのギブス固定	1	整形外科学	
					
			膝関節矢状断T ₂ 強調画像		
2006 J181	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題61	誤っている組合せはどれか。 1. 頸椎後縦靭帯骨化症 2. 強直性脊椎炎 3. 腰部脊柱管狭窄症 4. 腰椎椎間板ヘルニア	膝蓋腱反射亢進 腰椎可動域制限 間欠性跛行 アキレス腱反射亢進	4	整形外科学
2006 J182	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題62	脊柱管狭窄症の原因はどれか。2つ選べ。 1. 黄色靭帯肥厚 2. 椎間板ヘルニア 3. 骨形成不全症 4. 腰椎分離症		12	整形外科学
2006 J183	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題63	脊髄性小児麻痺で正しいのはどれか。 1. 脊髓後角細胞が侵される。 2. 滞直性麻痺がある。 3. 腱反射は亢進する。 4. 感覚異常はない。		4	整形外科学
2006 J184	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題64	新生児股関節脱臼の診断で最も信頼性の高いのはどれか。 1. 股関節開排制限 2. オルトラーニ(Ortolani)クリック徵候 3. 大腿皮膚溝の非対称 4. 脚長差		2	整形外科学
2006 J185	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題65	人口関節置換術の適応でないのはどれか。 1. 関節リウマチによる関節症 2. 变形性関節症 3. 化膿性関節炎後の関節症 4. 血友病による関節症		3	整形外科学
2006 J186	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題66	正しい組合せはどれか。2つ選べ。 1. 外傷性股関節脱臼 2. 距骨頸部骨折 3. 手舟状骨腰部骨折 4. 第1中手骨基底部骨折	大腿骨頭壞死 距骨頭部壞死 近位骨片壞死 遠位骨片壞死	13	柔道整復理論
2006 J187	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題67	脂肪塞栓症で誤っているのはどれか。 1. 多発骨折に合併することが多い。 2. 肺や脳が侵される。 3. 点状出血が見られる。 4. 症状は一過性で予後は良い。		4	柔道整復理論
2006 J188	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題68	長期の固定が原因で発生するのはどれか。2つ選べ。 1. 偽関節 2. 骨化性筋炎 3. 筋萎縮 4. 関節拘縮		34	柔道整復理論

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J189	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題69	外傷性脱臼の合併症で誤っているのはどれか。 1. 脊椎の脱臼で脊髄損傷がみられる。 2. 末梢神経損傷ではneurotmesisが多くみられる。 3. 勢帯断裂の放置で動搖関節がみられる。 4. 関節窓縁骨折の放置で反復性脱臼がみられる。	2	柔道整復 理論
2006 J190	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題70	肉ばなれで正しいのはどれか。 1. 直達外力によって発生する。 2. 再発することはまれである。 3. 患部に陥凹を認めるものは重症である。 4. 観血的治療が優先される。	3	柔道整復 理論
2006 J191	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題71	正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 小児の頭蓋冠骨折は陥凹骨折が多い。 2. 中頭蓋窓骨折ではブラックアイがみられる。 3. 前頭蓋窓骨折ではバトル(Battle)徵候がみられる。 4. 頭蓋底骨折は亀裂骨折が多い。	14	柔道整復 理論
2006 J192	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題72	頸関節脱臼で誤っているのはどれか。 1. 関節包内脱臼である。 2. 頸関節症の原因となる。 3. 大臼歯が横杆の支点となる。 4. 中年女性に多い。	3	柔道整復 理論
2006 J193	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題73	肋骨骨折で正しいのはどれか。 1. 介達外力による損傷は圧迫骨折が多い。 2. ゴルフによる損傷は右前胸部に多い。 3. 外力が強い場合は重複骨折が多い。 4. 肋軟骨の損傷は骨軟骨境界部に多い。	4	柔道整復 理論
2006 J194	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題74	鎖骨骨折の初検時にみられないのはどれか。 1. 患側肩部が下垂している。 2. 患側上肢を健側で抱えている。 3. 患側の肩幅が健側に比べ狭い。 4. 頭部を健側に傾けている。	4	柔道整復 理論
2006 J195	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題75	肩甲骨骨折で正しいのはどれか。 1. 体部骨折の多くは縦骨折である。 2. 肩峰骨折には著明な転位がみられる。 3. 上角骨折の骨片転位は棘上筋の牽引による。 4. 下角骨折は外上方転位を呈する。	4	柔道整復 理論
2006 J196	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題76	上腕骨結節部骨折で正しいのはどれか。 1. 大結節骨折は肩関節前方脱臼に合併しやすい。 2. 大結節骨折は肩関節内転・内旋位で固定する。 3. 小結節単独骨折は棘下筋の牽引によって発生する。 4. 小結節骨折は上腕二頭筋短頭腱の脱臼を合併する。	1	柔道整復 理論
2006 J197	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題77	上腕骨骨幹部中央部骨折について正しい組合せはどれか。 1. 直達外力での骨折 粉碎骨折 2. 末梢神経損傷 上腕二頭筋機能不全 3. 横骨折の治療 ハンギングキャスト法 4. 偽関節形成 軋轆音を証明	1	柔道整復 理論
2006 J198	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題78	上腕骨遠位部骨折で正しいのはどれか。 1. 小児の骨折は複合骨折が多い。 2. 顆上骨骨折は屈曲型骨折が多い。 3. 内側上顆骨折は肘関節脱臼に合併するものが多い。 4. 通顆骨折は遲発性尺骨神経麻痺を残すものが多い。	3	柔道整復 理論
2006 J199	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題79	小児上腕骨顆上伸展型骨折の受傷後3か月のエックス線写真のシェーマを示す。考えられる現症はどれか。 1. 内反肘 2. 外反肘 3. 伸展運動制限 4. 屈曲運動制限	4	柔道整復 理論
2006 J200	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題80	橈骨近位端部骨折で誤っているのはどれか。 1. 肘関節伸展外反位で手を衝いて発生する。 2. 前腕回旋運動時激痛がある。 3. 小児では橈骨頸部が内方へ傾斜する。 4. 成人の場合は解剖学的整復が必要である。	3	柔道整復 理論
2006 J201	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題81	橈骨骨幹部下1/3骨折で遠位骨片転位に関与するのはどれか。 1. 回外筋 2. 上腕二頭筋 3. 上腕筋 4. 方形回内筋	4	柔道整復 理論



No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J202	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題82	オートバイでハンドルを握ったまま転倒した際に発生しやすいのはどれか。 1. コーレス(Colles)骨折 2. スミス(Smith)骨折 3. ショウファー(Chauffeur)骨折 4. 背側バートン(Barton)骨折	2	柔道整復理論
2006 J203	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題83	手の舟状骨骨折で正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 中央1/3部骨折は遠位骨片が壊死しやすい。 2. 月状骨脱臼とは合併しない。 3. 中央部から近位の骨折は関節包内骨折である。 4. 偽関節は腕立て伏せ運動に障害を残す。	34	柔道整復理論
2006 J204	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題84	ベネット(Bennett)骨折で誤っているのはどれか。 1. 近位骨片は大菱形骨と正常な関係を保つ。 2. 遠位骨片は外転旋位を呈す。 3. 母指の内・外転運動が不能になる。 4. 整復位保持が困難で再転位しやすい。	2	柔道整復理論
2006 J205	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題85	骨折整復後の固定肢位で正しい組合せはどれか。2つ選べ。 1. 上腕骨頸上伸展型骨折 肘関節90~100度屈曲位、前腕回内位 2. スミス(Smith)骨折 肘関節90度屈曲位、前腕回内位、手関節軽度屈曲(掌屈)・尺屈位 3. コーレス(Colles)骨折 肘関節90度屈曲位、前腕回外位、手関節軽度伸展(背屈)・尺屈位 4. 肘頭骨折 肘関節伸展位、前腕回外位	14	柔道整復理論
2006 J206	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題86	中節骨浅指屈筋腱付着部近位骨折の固定肢位で正しいのはどれか。 1. 2.  3.  4.  	1	柔道整復理論
2006 J207	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題87	坐骨結節剥離骨折の原因筋でないのはどれか。 1. 薄筋 2. 大内転筋 3. 半膜様筋 4. 大腿二頭筋	1	柔道整復理論
2006 J208	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題88	転子果長が短縮するのはどれか。 1. 上方に転位したマルゲーヌ(Malgaigne)骨折 2. 大腿骨頸部骨頭下骨折の内転型 3. 延長転位の著明な膝蓋骨横骨折 4. 定型的転位を呈した下腿両骨骨幹部骨折	4	柔道整復理論
2006 J209	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題89	Q角が増大するのはどれか。 1. 大腿骨外顆骨折 2. 股骨内顆骨折 3. 股骨頭粉碎骨折 4. 股骨下1/3骨幹部骨折	1	柔道整復理論
2006 J210	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題90	下腿骨骨幹部骨折の合併症とその要因との組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 総腓骨神経麻痺 直達外力で発生した腓骨下1/3骨折 2. 尖足位拘縮 足関節屈曲(底屈)位固定の継続 3. 膝関節拘縮 PTBギブスによる荷重歩行 4. 内反変形 脛骨単独の斜骨折	24	柔道整復理論
2006 J211	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題91	下腿骨果部骨折で正しいのはどれか。 1. 外転型では前距腓靭帯断裂を伴うことが多い。 2. 内転型の足部変形は軽度のことが多い。 3. コットン(Cotton)骨折は脛腓靭帯の剥離骨折である。 4. 脛骨後縁部骨折は足関節伸展(背屈)強制で発生しやすい。	2	柔道整復理論
2006 J212	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題92	距骨骨折と踵骨骨折に共通するのはどれか。 1. 高所からの落下による受傷機序 2. 筋の牽引力による延長転位 3. 血行不良による骨壊死 4. 後方転位によるナウマン(Naumann)症候	1	柔道整復理論
2006 J213	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題93	距腿関節脱臼で内果が突出してみえるのはどれか。 1. 外側脱臼 2. 内側脱臼 3. 前方脱臼 4. 後方脱臼	1	柔道整復理論

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J214	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題94	距腿関節脱臼の発生機序で誤っているのはどれか。 1. 外側脱臼は足部の外転強制 2. 内側脱臼は足部の内転強制 3. 後方脱臼は足部の屈曲(底屈)強制 4. 上方脱臼は足部の伸展(背屈)強制	4	柔道整復理論
2006 J215	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題95	頸関節症で誤っているのはどれか。 1. マウスピースが治療に使われる。 2. 咬合異常は原因の1つである。 3. 型は関節円板の異常が原因である。 4. 頸関節運動時に弾発現象がみられる。	3	柔道整復理論
2006 J216	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題96	野球肘の好発部位でないのはどれか。 1. 内側副韧帯 2. 肘頭 3. 上腕骨小頭 4. 上腕骨外側上顆	4	柔道整復理論
2006 J217	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題97	テニス肘で誤っているのはどれか。 1. 発育期の障害である。 2. 握力低下がみられる。 3. 誘発テストとしてトムセン(Thomsen)テストがある。 4. 短橈側手根伸筋起始部が損傷される。	1	柔道整復理論
2006 J218	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題98	後骨間神経麻痺で正しいのはどれか。 1. 感覚障害がある。 2. モンテギア(Monteggia)骨折に合併する。 3. 手関節の伸展(背屈)は不能である。 4. 前腕の回外が不能である。	2	柔道整復理論
2006 J219	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題99	第2~5指のMP関節ロッキングで誤っているのはどれか。 1. 第2指に多い。 2. MP関節は屈曲位をとる。 3. 觀血的療法の適応がある。 4. 弹発指との鑑別が困難である。	4	柔道整復理論
2006 J220	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題100	正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 驚足炎では尻上がり現象が陽性である。 2. 陽脛動脈炎はX脚に多い。 3. オスグッド・シュラッター(Osgood-Schlatter)病は骨端の骨化障害である。 4. ジャンパー膝は膝蓋韌帶付着部の炎症である。	34	柔道整復理論
2006 J221	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題101	10歳の男子。前腕部を損傷した。エックス線写真(別冊No.2)を別に示す。この損傷の整復後の固定肢位で正しいのはどれか。 1. 肘関節鋭角屈曲位・前腕回外位 2. 肘関節鋭角屈曲位・前腕回内位 3. 肘関節鈍角屈曲位・前腕回外位 4. 肘関節鈍角屈曲位・前腕回内位	1	柔道整復理論
2006 J222	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題102	22歳の男性。右手首の痛みと手首の動きが悪くなつたため来所した。3ヶ月前に野球の練習中ヘッドスライディングをした際に右手を負傷し、3週間安静固定を行い練習を休んでいた。痛みがとれたため練習を再開したところ、練習開始直後から痛みがではじめてきたという。初検時にスナップボックス部に軽度の腫脹と圧痛を認めた。最も考えられる損傷はどれか。 1. 手関節捻挫 2. 手舟状骨骨折 3. ズデック(Sudeck)骨萎縮 4. 長母指伸筋腱断裂	2	柔道整復理論
2006 J223	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題103	20歳の女性。なで肩、左頸から左上肢にしびれ感が出現し、あまり力が入らず、夜間痛も強い。上肢を拳上させて支えた状態でしばらく様子を観察すると、しびれ感が軽減したので、以下の検査を試みた。この症例で陽性になりにくい検査はどれか。 1.  2.  3.  4. 	3	柔道整復理論

No. code	問題no	問題	解答	科目
2006 J224	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題104	55歳の女性。スーパー・マーケットに勤務しており、手を過度に使用する仕事をしている。最近になり右手の指で小さなものがつまみづらくなり、右母指・示指・中指掌側の感覺鈍麻を訴え来所した。夜間になると疼痛が増悪するとのことであった。母指球筋に萎縮があり、手根掌側の叩打によって放散痛を認めた。最も考えられるのはどれか。 1. 前骨間神経麻痺 2. 回内筋症候群 3. ギヨン(Guyon)管症候群 4. 手根管症候群	4	柔道整復理論
2006 J225	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題105	23歳の男性。左環指が伸びないと訴えて来所した。3年前に左環指基節骨骨幹部骨折の既往があり、骨癒合はしているが掌側凸の変形を残したまま治癒したことである。PIP関節には約30度の屈曲拘縮を認めた。同関節の他動的屈曲は正常であるが、中指・小指を伸展位に保持した際の環指PIP関節の独立自動屈曲は制限されている。なお、MP関節およびDIP関節の運動はほぼ正常である。PIP関節の屈曲拘縮を起こしている原因はどれか。 1. 浅指屈筋腱の癒着 2. 深指屈筋腱の癒着 3. 側副韌帯の肥厚短縮 4. 指背腱膜の癒着	1	柔道整復理論
2006 J226	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題106	69歳の女性。ゴミを出した帰りに自宅前の凍結道路でしりもちをついて転倒した。右股関節部周辺に痛みがあったが、歩くことができたので自宅に帰り朝食の準備に取りかかった。冷蔵庫の野菜室からネギを取るためにしゃがんで立ち上がりようとした際、右股関節部の痛みが強くなり立つことができなくなった。最も考えられるのはどれか。 1. 股関節後方不全脱臼が完全脱臼となった。 2. 大腿骨頸部外転型骨折が内転型骨折となった。 3. 軽度の大腿骨頭すべり症が高度のすべりを起こした。 4. 大腿筋膜張筋による弾発股が一時的な運動制限を起こした。	2	柔道整復理論
2006 J227	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題107	14歳の男子。肥満体型。右膝関節部の痛みを訴えて来所した。はっきりとした原因はなく、1か月位前から遊んでいるときに、膝に痛みを感じるようになった。3日前から膝部や股関節部に痛みが増強し、跛行が著明になってきたと訴える。膝には腫脹や圧痛はみられず炎症症状もないが、下肢を他動運動させると股関節部に運動制限がある。最も考えられるのはどれか。 1. 大腿骨骨肉腫 2. 膝蓋軟骨軟化症 3. 大腿骨骨頭すべり症 4. ペルテス(Pertes)病	3	柔道整復理論
2006 J228	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題108	21歳の女性。自宅でコタツから立ち上ろうとしてよろけ、膝関節軽度屈曲位で下腿の外旋運動を強制された。膝関節部に疼痛が出現するとともに患肢荷重および屈伸運動不能となつたため来所した。膝関節は軽度屈曲位に弾発性固定され、持続性の疼痛、腫脹および膝外側に骨性的膨隆を認めた。この損傷で誤っているのはどれか。 1. 膝蓋骨高位を認める場合が多い。 2. 腰骨粗面が内方へ偏位している場合が多い。 3. 膝蓋骨骨軟骨骨折の合併がみられる。 4. 自然に整復されて受診する場合が多い。	2	柔道整復理論
2006 J229	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題109	14歳の男子。中学入学後、陸上競技を始めた。1か月前から右膝に痛みを感じていたが、練習を休まずに継続していた。症状が悪化し、脛骨粗面の突出が目立ってきたので来所した。この患者に対する指導管理として適切でないのはどれか。 1. 一時的なスポーツ活動の休止 2. 突出部の継続的な圧迫 3. 大腿四頭筋のストレッチング 4. 疼痛部位へのアイシング	2	柔道整復理論
2006 J230	第014回柔道整復師 平成18年(2006年) 【午後】問題110	35歳の男性。2か月前から起床後の歩き始めの際、左踵に痛みを感じていた。運動後や長時間の立ち仕事の後に痛みが増強してきたので来所した。腫脹や発赤、感覚異常は特にみられなかったが、図のように足底部で圧痛点を認めた。また、足指を他動的に伸展させると同部位の痛みが再現された。最も考えられるのはどれか。 1. 外脛骨障害 2. 足根管症候群 3. 足底腱膜炎 4. 跟骨骨折	3	柔道整復理論
2007 J001	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題1	脊柱と関節をつくるのはどれか。 1. 肩甲骨 2. 鎖骨 3. 寛骨 4. 大腿骨	3	必修
2007 J002	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題2	筋とその起始との組合せで誤っているのはどれか。 1. 上腕二頭筋短頭 烏口突起 2. 上腕三頭筋長頭 関節上結節 3. 桡側手根屈筋 上腕骨内側上顆 4. 尺側手根伸筋 上腕骨外側上顆	2	必修



No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J003	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題3	酸素濃度が高い血液が流れるのはどれか。 1. 肺動脈 2. 肺静脈 3. 上大静脈 4. 下大静脈	2	必修
2007 J004	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題4	皮質が存在する部位はどれか。 1. 脊髄 2. 延髄 3. 橋 4. 小脳	4	必修
2007 J005	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題5	貯蔵型の炭水化物はどれか。 1. グルコース 2. グリコーゲン 3. ガラクトース 4. フルクトース	2	必修
2007 J006	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題6	下垂体後葉ホルモンはどれか。 1. 成長ホルモン 2. 副腎皮質刺激ホルモン 3. 黄体形成ホルモン 4. オキシトシン	4	必修
2007 J007	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題7	骨格筋の収縮を引き起こす際、筋小胞体から放出されるのはどれか。 1. Naイオン 2. Caイオン 3. Kイオン 4. Clイオン	2	必修
2007 J008	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題8	肩関節を外転するのはどれか。 1. 小円筋 2. 肩甲下筋 3. 棘下筋 4. 棘上筋	4	必修
2007 J009	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題9	良性腫瘍の特徴について正しいのはどれか。 1. 膨張性発育 2. 播種 3. 悪液質 4. 強い異型性	1	必修
2007 J010	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題10	正しいのはどれか。 1. 紫外線の殺菌作用は強いので、各種医療機器の消毒に用いられる。 2. 高圧蒸気滅菌法は110℃、2気圧、20分の条件を用いる。 3. 殺菌とはすべての微生物を死滅させ、無菌状態にすることをいう。 4. 防腐とは微生物の増殖を抑えて腐敗を防止することをいう。	4	必修
2007 J011	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題11	柔道整復師法で広告してならないのはどれか。 1. 施術所の所在地 2. 施術所の施術日時 3. 柔道整復師の氏名 4. 柔道整復師が得意とする部位	4	必修
2007 J012	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題12	筋力増強訓練について正しいのはどれか。 1. 筋持久力を高めるには最大筋力の80%程度の負荷を用いる。 2. 徒手筋力テストで2の筋には抗重力肢位で自動運動を行わせる。 3. 心肺機能の低下した患者には上肢の等尺性運動は避ける。 4. 等張性筋力増強訓練には特別の訓練機器が必要である。	3	必修
2007 J013	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題13	病的反射の出現を示唆するのはどれか。 1. 錐体外路障害 2. 錐体路障害 3. 自律神経障害 4. 感覚障害	2	必修
2007 J014	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題14	関節リウマチで起こりにくいのはどれか。 1. 朝のこわばり 2. 皮下結節 3. 遠位指節間関節炎 4. 対称性手関節炎	3	必修
2007 J015	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題15	急性炎症の四主徴でないのはどれか。 1. 発赤 2. 腫脹 3. 疼痛 4. 壊死	4	必修
2007 J016	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題16	無菌的な手術が最も必要な部位はどれか。 1. 腱 2. 筋肉 3. 神経 4. 関節	4	必修

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J017	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題17	異常可動性が認められるのはどれか。 1. 陥没骨折 2. 亀裂骨折 3. 若木骨折 4. 骨膜下骨折	1	必修
2007 J018	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題18	小児の骨折の特徴で誤っているのはどれか。 1. 骨癒合は成人より早い。 2. ソルター・ハリス型が多い。 3. 骨膜は厚く、若木骨折になる。 4. 骨端線離開となることがある。	2	必修
2007 J019	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題19	高齢者に多い骨折はどれか。 1. 肘頭骨折 2. 上腕骨外顆骨折 3. 橋骨遠位端骨折 4. 大腿骨骨幹部骨折	3	必修
2007 J020	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題20	骨癒合の遷延因子はどれか。 1. 海綿骨骨折 2. 噙合骨折 3. 螺旋状骨折 4. 粉碎骨折	4	必修
2007 J021	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題21	持続的な牽引力が加わるのはどれか。 1. 脊椎椎体圧迫骨折のベーラーギブス固定 2. 肩関節前方脱臼のデゾー包帯固定 3. 上腕骨骨幹部骨折のハンキングキャスト固定 4. 下腿骨骨幹部骨折のPTBギブス固定	3	必修
2007 J022	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題22	屈曲整復法が適応となるのはどれか。 1. 鎖骨中外1/3境界部定型的骨折 2. 前腕両骨骨幹部遠位1/3部骨折 3. 大腿骨頸部内側内転型骨折 4. 第5中足骨近位骨幹端疲労骨折	2	必修
2007 J023	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題23	無腐性骨壊死になりにくいのはどれか。 1. 上腕骨解剖頸骨折 2. 手舟状骨骨折 3. 大腿骨頸部内側骨折 4. 腰骨中下1/3境界部骨折	4	必修
2007 J024	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題24	肋骨骨折の合併症で誤っているのはどれか。 1. 緊張性気胸 2. 血胸 3. 漏斗胸 4. 動搖性胸郭	3	必修
2007 J025	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題25	顎関節前方脱臼の症状で誤っているのはどれか。 1. 下顎前突様の長い顔貌となる。 2. 耳珠前部が陥凹する。 3. 頬骨弓下部が隆起する。 4. 閉口のままとなる。	4	必修
2007 J026	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題26	上腕骨外科頸骨折で誤っているのはどれか。 1. 高齢者に好発する。 2. 介達外力によるものが多い。 3. 外転型では三角筋部の膨隆が消失する。 4. 腋窩神経損傷の合併がある。	3	必修
2007 J027	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題27	上腕骨頸上骨折で誤っているのはどれか。 1. 幼少年期に好発する。 2. 伸展型が多い。 3. 屈曲型の骨折線は前方から後上方に走行する。 4. 肘頭はヒューター線上にある。	3	必修
2007 J028	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題28	コレス(Colles)骨折で誤っているのはどれか。 1. 介達外力によるものが多い。 2. 捻転転位は回外方向である。 3. 橋側転位によって銃剣状変形を呈する。 4. 骨折線は背側からやや斜め掌側上方へ走る。	4	必修
2007 J029	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題29	肩腱板損傷で誤っているのはどれか。 1. ドロップアームサイン陽性となる。 2. 運動時痛は外転60~120度の間で認める。 3. 結節間溝部に圧痛を認める。 4. 経時に棘上筋の萎縮が生じる。	3	必修
2007 J030	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題30	マックマレードテストで判定できるのはどれか。 1. 関節半月損傷 2. 前十字靱帯損傷 3. 内側副靱帯損傷 4. 滑膜ひだ障害	1	必修

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J031	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題31	膀胱の上皮はどれか。 1. 移行上皮 2. 多列上皮 3. 単層立方上皮 4. 重層扁平上皮	1	解剖学
2007 J032	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題32	外胚葉から分化するのはどれか。 1. 毛 2. 胃 3. 脾臓 4. 精巣	1	解剖学
2007 J033	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題33	関節とその分類との組合せで誤っているのはどれか。 1. 距腿関節蝶番関節 2. 股関節球関節 3. 母指の手根中手関節橈円関節 4. 上橈尺関節車軸関節	3	解剖学
2007 J034	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題34	誤っている組合せはどれか。 1. 蝶形骨視神経管 2. 側頭骨内耳孔 3. 後頭骨舌下神経管 4. 前頭骨卵円孔	4	解剖学
2007 J035	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題35	鼻腔を構成しない骨はどれか。 1. 篩骨 2. 頰骨 3. 蝶形骨 4. 上顎骨	2	解剖学
2007 J036	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題36	肩甲骨に付着しない筋はどれか。 1. 大胸筋 2. 小胸筋 3. 三角筋 4. 上腕二頭筋	1	解剖学
2007 J037	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題37	中足骨と関節をつくるのはどれか。 1. 距骨 2. 立方骨 3. 跖骨 4. 舟状骨	2	解剖学
2007 J038	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題38	大腿屈筋群に属するのはどれか。 1. 縫工筋 2. 薄筋 3. 内側広筋 4. 大腿二頭筋	4	解剖学
2007 J039	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題39	腹腔動脈の枝はどれか。 1. 腎動脈 2. 縱肝動脈 3. 上腸間膜動脈 4. 内腸骨動脈	2	解剖学
2007 J040	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題40	大脳動脈輪を構成しないのはどれか。 1. 前大脳動脈 2. 中大脳動脈 3. 後大脳動脈 4. 上小脳動脈	4	解剖学
2007 J041	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題41	正しいのはどれか。 1. 奇静脉は下大静脈へ注ぐ。 2. 冠状静脈洞は左心房へ注ぐ。 3. 肝静脈は門脈へ注ぐ。 4. 胸管は左静脈角へ注ぐ。	4	解剖学
2007 J042	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題42	歯根膜と接しているのはどれか。 1. 齒髄 2. 象牙質 3. エナメル質 4. セメント質	4	解剖学
2007 J043	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題43	塩酸を分泌する胃の細胞はどれか。 1. 表層粘液細胞 2. 旁細胞(壁細胞) 3. 主細胞 4. 副細胞	2	解剖学
2007 J044	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題44	上顎洞の開口部はどれか。 1. 上鼻道 2. 中鼻道 3. 下鼻道 4. 縦鼻道	2	解剖学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J045	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題45	甲状軟骨があるのはどこか。 1. 中咽頭 2. 下咽頭 3. 喉頭 4. 気管	3	解剖学
2007 J046	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題46	正しいのはどれか。 1. 腎臓は腹膜に包まれ間膜を有する。 2. 腎臓は表層の髓質と深部の皮質からなる。 3. 腎乳頭は腎盂(腎盤)に包まれる。 4. 腎小体とそれに続く尿細管をネフロンという。	4	解剖学
2007 J047	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題47	泌尿器について誤っているのはどれか。 1. 膀胱三角は左右の尿管口と内尿道口でつくられる。 2. 膀胱三角の粘膜にはヒダがある。 3. 膀胱括約筋は内尿道口周囲の平滑筋である。 4. 尿道括約筋は尿道隔膜部周囲の横紋筋である。	2	解剖学
2007 J048	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題48	精子を産生するのはどれか。 1. 曲精細管 2. 直精細管 3. 精管 4. 精囊	1	解剖学
2007 J049	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題49	男性ホルモンを分泌するのはどれか。 1. ライディッヒ細胞(間質細胞) 2. セルトリ細胞 3. 精祖細胞 4. 精子細胞	1	解剖学
2007 J050	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題50	ステロイドホルモンを分泌するのはどれか。 1. 下垂体 2. 甲状腺 3. 副腎皮質 4. ランゲルハンス島	3	解剖学
2007 J051	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題51	大脳皮質運動性言語野(ブローカ中枢)があるのはどこか。 1. 前頭葉 2. 頭頂葉 3. 側頭葉 4. 後頭葉	1	解剖学
2007 J052	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題52	錐体交叉があるのはどこか。 1. 間脳 2. 中脳 3. 橋 4. 延髄	4	解剖学
2007 J053	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題53	舌神経を分枝するのはどれか。 1. 上顎神経 2. 下顎神経 3. 舌咽神経 4. 舌下神経	2	解剖学
2007 J054	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題54	副交感神経線維を含まないのはどれか。 1. 動眼神経 2. 三叉神経 3. 顔面神経 4. 迷走神経	2	解剖学
2007 J055	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題55	頸神経叢の枝はどれか。 1. 肩甲上神経 2. 肩甲下神経 3. 鎮骨上神経 4. 鎮骨下筋神経	3	解剖学
2007 J056	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題56	正しいのはどれか。 1. 尺骨神経は上腕骨内側上顆の前を通る。 2. 正中神経は手根管を通過する。 3. 総腓骨神経は下腿骨間膜を貫通する。 4. 腰骨神経は外果の下を通る。	2	解剖学
2007 J057	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題57	正しいのはどれか。 1. 表皮は単層立方上皮からなる。 2. 皮下組織は疎性結合組織からなる。 3. 毛包には大汗腺が開口する。 4. 立毛筋は横紋筋である。	2	解剖学
2007 J058	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題58	感覚神経がシナプスを介さないで脳に至るのはどれか。 1. 視覚器 2. 味覚器 3. 聴覚器 4. 嗅覚器	4	解剖学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J059	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題59	体表から触知できるのはどれか。 1. 内耳孔 2. 大後頭孔 3. 眼窩下孔 4. 下顎孔	3	解剖学
2007 J060	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題60	末梢神経を触知できるのはどれか。 1. 坐骨結節 2. 大腿骨小転子 3. 大腿骨内側上顆 4. 腓骨頸	4	解剖学
2007 J061	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題61	エネルギー源としてATPを必要とするのはどれか。 1. 拡散 2. 浸透 3. 吸過 4. 能動輸送	4	生理学
2007 J062	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題62	正常血漿の組成はどれか。 1. $\text{Na}^+ 140\text{mEq/l}$ 、 $\text{K}^+ 5\text{mEq/l}$ 、 $\text{Cl}^- 100\text{mEq/l}$ 2. $\text{Na}^+ 140\text{mEq/l}$ 、 $\text{K}^+ 5\text{mEq/l}$ 、 $\text{Cl}^- 10\text{mEq/l}$ 3. $\text{Na}^+ 10\text{mEq/l}$ 、 $\text{K}^+ 140\text{mEq/l}$ 、 $\text{Cl}^- 100\text{mEq/l}$ 4. $\text{Na}^+ 10\text{mEq/l}$ 、 $\text{K}^+ 140\text{mEq/l}$ 、 $\text{Cl}^- 10\text{mEq/l}$	1	生理学
2007 J063	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題63	血液凝固に関して正しいのはどれか。 1. ビタミンKが不足すると凝固能が低下する。 2. フィブリリンは一次血栓を形成する。 3. カルシウムは血液凝固を抑制する。 4. プラスミンは抗凝固剤である。	1	生理学
2007 J064	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題64	心周期の等容性収縮期に関して正しいのはどれか。 1. 動脈弁が開いている。 2. 第一心音が発生する。 3. 心房筋が収縮する。 4. 心室に血液が流入する。	2	生理学
2007 J065	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題65	総断面積が最も大きいのはどれか。 1. 大動脈 2. 細動脈 3. 毛細血管 4. 大静脈	3	生理学
2007 J066	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題66	容積が増加すると血中酸素分圧が低下するのはどれか。 1. 肺活量 2. 肺胞換気量 3. 死腔量 4. 1回換気量	3	生理学
2007 J067	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題67	酸素受容器が存在するのはどれか。2つ選べ。 1. 肺胞壁 2. 顆動脈小体 3. 大動脈体 4. 延髄	2or3	生理学
2007 J068	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題68	ビタミンDに関して正しいのはどれか。 1. 日光によって分解が促進される。 2. 骨からのカルシウム動員を促進する。 3. 腎臓で活性化される。 4. 腸管からのカルシウム吸収を抑制する。	2or3	生理学
2007 J069	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題69	胃液の分泌機序で誤っている組合せはどれか。 1. 脳相 舌下神経 2. 胃相 ガストリン 3. 胃相 迷走神経 4. 腸相 セクレチン	1	生理学
2007 J070	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題70	消化吸収過程で正しい組合せはどれか。 1. ビタミン カイロミクロン 2. 蛋白質 細胞内消化 3. 糖質 リンバ管 4. 脂質 携体輸送	2	生理学
2007 J071	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題71	誤っている組合せはどれか。 1. ガストリン 塩酸分泌促進 2. ガストリン 胃運動促進 3. セクレチン 脾液分泌促進 4. セクレチン 胆囊収縮促進	4	生理学
2007 J072	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題72	低温に曝露されたときに起こるのはどれか。 1. 立毛筋の収縮 2. 代謝低下 3. 発汗 4. 皮膚血管拡張	1	生理学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J073	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題73	精神性発汗が起こりやすいのはどれか。 1. 腹部 2. 背部 3. 手掌 4. 大腿	3	生理学
2007 J074	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題74	糸球体内血圧が47mmHg、血漿コロイド浸透圧が22mmHg、ボーマン嚢内圧が12mmHgのとき、糸球体ろ過圧はどれか。 1. 81mmHg 2. 57mmHg 3. 37mmHg 4. 13mmHg	4	生理学
2007 J075	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題75	バゾプレッシンによって水の透過性が増すのはどれか。 1. 近位尿細管 2. ヘンレの係蹄下行脚 3. ヘンレの係蹄上行脚 4. 集合管	4	生理学
2007 J076	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題76	甲状腺ホルモンの作用でないのはどれか。 1. 水分保持 2. 熱量産生 3. 血糖上昇 4. 脂質分解	1	生理学
2007 J077	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題77	脾臓から分泌されないのはどれか。 1. インヒビン 2. ソマトスタチン 3. インスリン 4. グルカゴン	1	生理学
2007 J078	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題78	骨密度が高くなるのはどれか。 1. 骨軟化症 2. くる病 3. 大理石骨病 4. 骨粗鬆症	3	生理学
2007 J079	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題79	体性神経によって調節されているのはどれか。 1. 心筋 2. 血管平滑筋 3. 骨格筋 4. 消化管平滑筋	3	生理学
2007 J080	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題80	脊髄の後根が切断されたときに起こるのはどれか。 1. 感覚障害のみ 2. 運動麻痺のみ 3. 感覚障害と運動麻痺 4. 腱反射亢進	1	生理学
2007 J081	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題81	視交叉が障害されたとき両眼の視野で欠損するのはどれか。 1. 右側視野 2. 左側視野 3. 鼻側(内側)視野 4. 耳側(外側)視野	4	生理学
2007 J082	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題82	脊髄の左半分が損傷した時に病变部以下で障害されるのはどれか。2つ選べ。 1. 左半身の温覚 2. 右半身の温覚 3. 左半身の深部感覚 4. 右半身の深部感覚	23	生理学
2007 J083	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題83	女性への性分化について誤っている組合せはどれか。 1. 生殖隆起 卵巣 2. ウォルフ管 子宮 3. 生殖結節 陰核 4. 尿道ヒダ 小陰唇	2	生理学
2007 J084	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題84	精子形成と関係ないのはどれか。 1. プロラクチン 2. 果糖 3. アンドロジェン 4. 卵胞刺激ホルモン	1	生理学
2007 J085	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題85	血中エストラジオール値が最も高くなる時期はどれか。 1. 卵胞期 2. 排卵前期 3. 排卵期 4. 黄体期	2	生理学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J086	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題86	関節可動域表示で基本肢位の足関節角度はどれか。 1. 0度 2. 10度 3. 90度 4. 100度	1	運動学
2007 J087	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題87	運動の法則で誤っているのはどれか。 1. 加速度は力の大きさに正比例する。 2. 加速度は物体の質量に反比例する。 3. 加速度は力の働く方向と反対方向に働く。 4. 物体に作用する力は質量と加速度の積である。	3	運動学
2007 J088	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題88	錐体路に含まれないのはどれか。 1. 大脳皮質運動野 2. 内包 3. 大脳脚 4. 脊髄後角細胞	4	運動学
2007 J089	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題89	上腕二頭筋反射に直接関与するのはどれか。 1. 正中神経 2. 筋皮神経 3. 尺骨神経 4. 桡骨神経	2	運動学
2007 J090	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題90	脊髄に反射中枢をもたないのはどれか。 1. 緊張性頸反射 2. 伸張反射 3. 交差性反射 4. 屈筋反射	1	運動学
2007 J091	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題91	翼状肩甲に関与するのはどれか。 1. 小胸筋 2. 肩甲挙筋 3. 広背筋 4. 前鋸筋	4	運動学
2007 J092	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題92	正常乳児でモロー反応が生後消失する時期はどれか。 1. 3か月 2. 6か月 3. 9か月 4. 12か月	1	運動学
2007 J093	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題93	小児の歩行に関する発達過程で誤っている組合せはどれか。 1. 5か月 体幹を支えて立位保持すると、下肢で支えて立位姿勢を保つ。 2. 8か月 物につかりひとりで立ち上がる。 3. 1歳 階段の昇り動作ができるようになる。 4. 2歳 転倒しないで走ることができる。	3	運動学
2007 J094	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題94	自然歩行周期で両側支持期の占める比率はどれか。 1. 5% 2. 10% 3. 20% 4. 40%	3	運動学
2007 J095	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題95	パーキンソン(Parkinson)病患者にみられるのはどれか。 1. トレンデレンブルグ歩行 2. 小きざみ歩行 3. 鶴歩 4. 失調性歩行	2	運動学
2007 J096	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題96	ビタミンB12欠乏による疾患はどれか。 1. くる病 2. 慢性貧血 3. 夜盲症 4. 壊血病	2	病理学
2007 J097	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題97	第Ⅰ度熱傷の特徴はどれか。 1. 炭化 2. 潰瘍形成 3. 発赤、紅斑 4. 水疱形成	4	病理学
2007 J098	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題98	環境ホルモン(内分泌搅乱物質)でないのはどれか。 1. ダイオキシン 2. アスベスト 3. PCB 4. DDT	2	病理学
2007 J099	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題99	原虫でないのはどれか。 1. クリプトコッカス 2. 赤痢アメーバ 3. 膨トリコモナス 4. トキソプラズマ	1	病理学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J100	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題100	日和見感染症はどれか。 1. インフルエンザ 2. マラリア 3. サルモネラ症 4. カンジダ症	4	病理学
2007 J101	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題101	廃用性萎縮はどれか。 1. 老人の胸腺 2. 水腎症 3. 動脈硬化性萎縮腎 4. ギブス固定後の運動筋	4	病理学
2007 J102	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題102	誤っている組合せはどれか。 1. 肺うっ血 左心不全 2. にくずく肝 肝硬変 3. 下肢のうっ血 妊娠 4. 腹水 門脈圧亢進	2	病理学
2007 J103	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題103	肉芽組織の構成成分でないのはどれか。 1. 線維芽細胞 2. マクロファージ 3. 上皮細胞 4. 毛細血管	3	病理学
2007 J104	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題104	正しい組合せはどれか。 1. 好酸球 アレルギー性疾患 2. 好塩基球 IgG 3. 好中球 抗体産生 4. リンパ球 異物貪食	1	病理学
2007 J105	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題105	ターナー(Turner)症候群の染色体はどれか。 1. 46, XX 2. 46, XY 3. 45, XO 4. 47, XYY	3	病理学
2007 J106	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題106	正しい組合せはどれか。 1. 腺癌 癌真珠 2. 扁平上皮癌 印環細胞癌 3. 未分化癌 小細胞癌 4. カルチノイド 悪性非上皮性腫瘍	3	病理学
2007 J107	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題107	正しい組合せはどれか。 1. マルファン(Marfan)症候群 伴性劣性遺伝 2. 血友病 常染色体劣性遺伝 3. ダウン(Down)症候群 21トリソミー 4. 痛風 常染色体優性遺伝	3	病理学
2007 J108	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題108	奇形の原因となるウイルス感染はどれか。 1. 風疹 2. 麻疹 3. インフルエンザ 4. 日本脳炎	1	病理学
2007 J109	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題109	リハビリテーションについて誤っているのはどれか。 1. アフターケアである。 2. 第三次予防である。 3. 第三の医学とよばれる。 4. 回復はできる限り可能な範囲までを目標としている。	1	衛生学・ 公衆衛生学
2007 J110	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題110	WHO憲章に述べられている健康について正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 障害者も健常者も社会生活の中で幸福に共存できる状況である。 2. 享受できる健康水準に対する権利は国的事情によって異なる。 3. 病気でなく虚弱でない状態が健康である。 4. 人々の健康のために個人と国は協力しなければならない。	14	衛生学・ 公衆衛生学
2007 J111	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題111	騒音性難聴で最初に障害される音域はどれか。 1. 1,000Hz付近 2. 2,000Hz付近 3. 4,000Hz付近 4. 8,000Hz付近	3	衛生学・ 公衆衛生学
2007 J112	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題112	住居環境について正しいのはどれか。 1. 夏の家屋内気温は22~23℃が適切である。 2. 必要換気量は1人1時間あたり33m³である。 3. 家屋内二酸化炭素の濃度は1.0%が基準である。 4. 採光で入射角は4~5度あればよい。	2	衛生学・ 公衆衛生学
2007 J113	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題113	下水処理について誤っているのはどれか。 1. 活性汚泥中の好気性菌は有機物を分解浄化する。 2. 合併処理浄化槽では嫌気性菌を利用する。 3. 好気性処理で汚水中のリンが除去される。 4. 処理された水は水質検査後放流される。	3	衛生学・ 公衆衛生学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J114	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題114	廃棄物処理について誤っているのはどれか。 1. 感染性廃棄物を医療施設内で焼却処理した後は一般廃棄物として扱う。 2. 特別管理産業廃棄物の委託処理に管理票(マニフェスト)を使用する。 3. 医療施設ごとに廃棄物処理計画を策定する。 4. 家庭で飼っていた動物の死体を一般廃棄物として扱う。	1	衛生学・ 公衆衛生学
2007 J115	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題115	標本調査と比べて悉皆調査の特徴はどれか。 1. 経費が少なく済む。 2. 時間が節約できる。 3. 対象選択が容易である。 4. 計画立案が複雑である。	3	衛生学・ 公衆衛生学
2007 J116	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題116	母子保健について正しいのはどれか。 1. 思春期は精神的に安定した時期である。 2. 生後4週未満の死亡を乳児死亡という。 3. 母子保健の基本的サービスは都道府県が担当する。 4. 「健やか親子21」は母子保健の国民運動計画である。	4	衛生学・ 公衆衛生学
2007 J117	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題117	わが国の精神保健について正しいのはどれか。 1. 精神病院入院患者で最も多いのは躁うつ病である。 2. 通院医療費の公費負担制度がある。 3. 精神の健康・不健康を決定する相対的尺度はない。 4. 地域ケアよりも入院治療を重視する。	2	衛生学・ 公衆衛生学
2007 J118	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題118	原虫感染症でないのはどれか。 1. フィラリア症 2. クリプトスパリジウム症 3. トキソプラズマ症 4. マラリア	1	衛生学・ 公衆衛生学
2007 J119	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題119	垂直感染を起こすのはどれか。2つ選べ。 1. A型肝炎ウイルス 2. パラインフルエンザウイルス 3. サイトメガロウイルス 4. 風疹ウイルス	34	衛生学・ 公衆衛生学
2007 J120	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午前】問題120	消毒薬について誤っている組合せはどれか。 1. フェノール系 クレゾール石けん液 2. 第4級アンモニウム系 塩化ベンザルコニウム 3. ビグアナイド系 グルコン酸クロルヘキシジン 4. アルデヒド系 アルキルポリアミノエチルグリシン	4	衛生学・ 公衆衛生学
2007 J121	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題1	患者の権利について正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 適切な説明を求めることができる。 2. 未成年者に権利はない。 3. 憲法上の権利から保障される。 4. 裁判所の判決はない。	13	関係法規
2007 J122	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題2	クオリティ・オブ・ライフ(QOL)について誤っているのはどれか。 1. 生活の質と訳される。 2. 生命至上主義から導きだされる。 3. 患者の自己決定権の主張と結びつく。 4. 客観的な評価法がある。	2	関係法規
2007 J123	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題3	医療行為における患者の同意について正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 医療法第1条の4第2項に基づく。 2. 同意書があれば法律上の責任は問われない。 3. 法律上の慣習である。 4. 刑法上の違法性阻却事由にあたる。	14	関係法規
2007 J124	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題4	柔道整復師の免許について正しいのはどれか。 1. 都道府県知事は免許を交付することができる。 2. 再免許の交付は認められない。 3. 免許の欠格事由は料金の刑に処せられたものである。 4. 厚生労働大臣は免許を取り消すことができる。	4	関係法規
2007 J125	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題5	正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 業とは反復継続する意思で施術を行うことである。 2. 柔道整復師の免許は業務独占である。 3. はり師、きゅう師は柔道整復師の業務を行うことができる。 4. 理学療法とは柔道整復の業務を行うことができる。	12	関係法規
2007 J126	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題6	正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 日本薬局方に収められている物は医薬品である。 2. 柔道整復師は薬品の投与をしてはならない。 3. 施術所の中に薬局を開設することができる。 4. 衛生用品の購入には处方せんが必要である。	12	関係法規

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J127	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題7	施術所への立入検査について正しいのはどれか。 1. 都道府県知事が犯罪捜査のために行う。 2. 厚生労働省医薬食品局の職員のみが行う。 3. 立入検査には裁判所の許可を要する。 4. 都道府県知事が指定した職員に行わせる。	4	関係法規
2007 J128	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題8	柔道整復師法第28条について正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 施術所の使用制限については開設者の同意が必要である。 2. 施術所の一部を使用禁止にことができる。 3. 構造設備について改善を命ずることができる。 4. 衛生上の措置については含まれない。	23	関係法規
2007 J129	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題9	柔道整復師が広告できないのはどれか。 1. 予約に基づく施術の実施 2. 休日又は夜間における施術の実施 3. 外国での研修経験 4. 出張による施術の実施	3	関係法規
2007 J130	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題10	医療保険制度について誤っているのはどれか。2つ選べ。 1. 憲法第25条を根拠とする。 2. 医療給付は現物給付が原則である。 3. 加入については国民各自の選択に委ねられる。 4. 国民健康保険の運営単位は都道府県である。	34	関係法規
2007 J131	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題11	リハビリテーション医学の考え方で正しいのはどれか。 1. 障害を治療対象とする。 2. 疾病の治癒を治療目標とする。 3. 安静を治療の基本とする。 4. 医師が主に治療を行う。	1	リハビリ 医学
2007 J132	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題12	能力低下に対するアプローチはどれか。 1. 合併症の予防 2. 住環境整備 3. ファシリテーション 4. 車いす駆動訓練	4	リハビリ 医学
2007 J133	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題13	身体障害者福祉法による身体障害の対象に含まれるのはどれか。 1. 脊髄損傷による対麻痺 2. 脳梗塞による失調症 3. アルツハイマー(Alzheimer)病 4. ヒト免疫不全ウイルス(HIV)による免疫機能障害	3	リハビリ 医学
2007 J134	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題14	身体計測で正しいのはどれか。 1. 上肢長は上腕骨大結節から橈骨茎状突起までの距離を測る。 2. 前腕長は肘頭から尺骨茎状突起までの距離を測る。 3. 下肢長は大転子から足関節内果までの距離を測る。 4. 下腿長は脛骨外側顆から足関節外果までの距離を測る。	2	リハビリ 医学
2007 J135	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題15	バーセル指数に含まれない項目はどれか。 1. 食事 2. 整容 3. コミュニケーション 4. 階段昇降	3	リハビリ 医学
2007 J136	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題16	局所への物理療法と適応との組合せで正しいのはどれか。 1. コールドパック レイノー(Raynaud)病 2. 極超短波 急性炎症 3. ホットパック 高度血行障害 4. 超音波 金属内固定部位	4	リハビリ 医学
2007 J137	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題17	片麻痺患者の上肢機能訓練に用いる作業種目で適切でないのはどれか。 1. 園芸作業 2. 積み木 3. ペグボード 4. サンディング	1	リハビリ 医学
2007 J138	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題18	78歳の男性。突然の左半身の脱力により救急外来を受診し頭部MRI検査にて脳梗塞と診断され、脳卒中ユニットに入院となった。入院後3日目の診察では、意識は鮮明だが視線は左を向き、左上下肢を動かすよう指示しても自動運動はみられず、痛み刺激でわずかな運動がみられた。 正しいのはどれか。 1. 出現した運動は共同運動である。 2. 坐位訓練では三角巾で左肩関節亜脱臼を防ぐ。 3. 患者の右側から声をかけ、注意を促す。 4. ベッド状では左側臥位を多くとらせる。	2	リハビリ 医学
2007 J139	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題19	脊髄損傷患者の褥瘡予防対策として適切でないのはどれか。 1. ブッシュアップ 2. 車いすの座クッション 3. エアマット 4. 夜間副子	4	リハビリ 医学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J140	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題20	C6脊髄損傷(第6頸髄節機能残存)患者で使える筋はどれか。 1. 上腕三頭筋 2. 三角筋 3. 手内筋 4. 橋側手根屈筋	2	リハビリ 医学
2007 J141	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題21	脳性麻痺の定義で適切でないのはどれか。 1. 出生前に生じた脳の病変 2. 脳の非進行性病変 3. 永続的障害 4. 運動および姿勢の異常	1	リハビリ 医学
2007 J142	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題22	マン・ウェルニッケ姿勢として誤っているのはどれか。 1. 上肢屈曲 2. 凹足 3. 下肢伸展 4. 尖足	2	一般臨床 医学
2007 J143	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題23	痙攣を生じないのはどれか。 1. 脳血管障害 2. 重症筋無力症 3. 副甲状腺機能低下症 4. 洞不全症候群	2	一般臨床 医学
2007 J144	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題24	チアノーゼを起こすのはどれか。 1. 再生不良性貧血 2. 右心不全 3. 一酸化炭素中毒 4. 特発性血小板減少性紫斑病	2	一般臨床 医学
2007 J145	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題25	スプーン状爪がみられるのはどれか。 1. 關節リウマチ 2. 鉄欠乏性貧血 3. 肺気腫 4. ファロー(Fallow)四徴症	2	一般臨床 医学
2007 J146	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題26	正しい組合せはどれか。 1. 猿紅熱 ハンター(Hunter)舌炎 2. ジフテリア コブリック斑 3. 麻疹 咽頭偽膜形成 4. ビタミンB1欠乏症 口角びらん	除外	一般臨床 医学
2007 J147	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題27	二次性高血圧をきたさないのはどれか。 1. 褐色細胞腫 2. 大動脈弁閉鎖不全症 3. 原発性アルドステロン症 4. 甲状腺機能低下症	4	一般臨床 医学
2007 J148	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題28	頻脈をきたすのはどれか。 1. 脳圧亢進 2. 貧血 3. アダムス ストークス(Adams-Stokes)症候群 4. スポーツ心臓	2	一般臨床 医学
2007 J149	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題29	深部感覚障害をきたしうる疾患はどれか。 1. 重症筋無力症 2. パーキンソン(Parkinson)病 3. 筋萎縮性側索硬化症 4. 多発性硬化症	4	一般臨床 医学
2007 J150	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題30	アキレス腱反射が減弱するのはどれか。 1. 变形性頸椎症 2. 脳出血 3. 糖尿病 4. 多発性硬化症	3	一般臨床 医学
2007 J151	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題31	食道痛の成因でないのはどれか。 1. 热い食物をよく食べる。 2. 大量に喫煙をする。 3. 高脂肪食の習慣がある。 4. 高濃度のアルコールをよく飲む。	3	一般臨床 医学
2007 J152	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題32	腸閉塞の症状でないのはどれか。 1. 嘔吐 2. 下痢 3. 腹痛 4. 腹部膨満	2	一般臨床 医学
2007 J153	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題33	気管支喘息で正しいのはどれか。 1. 重積発作では坐位の姿勢をとる。 2. 発作時は吸気が延長する。 3. 気道閉塞は不可逆性である。 4. 発作の好発時期は冬である。	1	一般臨床 医学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J154	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題34	冠動脈硬化の危険因子でないのはどれか。 1. 飲酒 2. 喫煙 3. ストレス 4. 肥満	1	一般臨床 医学
2007 J155	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題35	48歳の男性。6か月前から歩行すると両下肢が痛むようになり、2週前から左足趾に潰瘍が出現した。タバコを毎日30本、25年間吸っている。 考えられるのはどれか。 1. 高安病 2. パージャー(Buerger)病 3. ベーチェット(Behget)病 4. レイノー(Raynaud)病	2	一般臨床 医学
2007 J156	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題36	伴性劣性遺伝するのはどれか。 1. 慢性貧血 2. 血友病 3. 特発性血小板減少性紫斑病 4. 慢性リンパ性白血病	2	一般臨床 医学
2007 J157	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題37	誤っているのはどれか。 1. 末端肥大症では内臓肥大がみられる。 2. 末端肥大症は視床下部腫瘍が原因である。 3. 下垂体性小人症では骨年齢は正常である。 4. 尿崩症では低張尿が認められる。	2or3	一般臨床 医学
2007 J158	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題38	クッシング(Cushing)症候群の徴候でないのはどれか。 1. 満月様顔貌 2. 骨粗鬆症 3. 下腿浮腫 4. 高コレステロール血症	3	一般臨床 医学
2007 J159	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題39	全身性エリテマトーデスの症状でないのはどれか。 1. 日光過敏 2. 痤 3. 糸球体腎炎 4. 破壊性関節炎	4	一般臨床 医学
2007 J160	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題40	ネフローゼ症候群の血清で低値になるのはどれか。 1. アルブミン 2. カリウム 3. クレアチニン 4. コレステロール	1	一般臨床 医学
2007 J161	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題41	46歳の男性。歩行中、くびを右にひねり、後頸部痛と回転性めまいが出現し、立位不能となつた。血圧と脈拍は正常。左眼裂狭小、左上下肢小脳性運動失調、左顔面と顔面を除く右半身の感覚障害を認めた。 考えられるのはどれか。 1. 中大脑動脈解離 2. 椎骨動脈解離 3. 内頸動脈解離 4. 前大脑動脈解離	2	一般臨床 医学
2007 J162	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題42	パーキンソン(Parkinson)病でみられないのはどれか。 1. 振戻 2. 筋固縮 3. 多動 4. 姿勢調節障害	3	一般臨床 医学
2007 J163	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題43	後天性免疫不全症候群(AIDS)で正しいのはどれか。 1. ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染後、数週間で発症する。 2. CD8陽性リンパ球数が著しく減少する。 3. 進行すると日和見感染症を合併する。 4. 新生児AIDSの予後は一般に良い。	3	一般臨床 医学
2007 J164	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題44	正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 開放創を多量の生理的食塩水で洗浄した。 2. 脊椎損傷が疑われたため側臥位で搬送した。 3. 創の止血の目的でデブリドマンを行った。 4. 交通事故では多発外傷の有無に注意した。	14	外科学概論
2007 J165	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題45	76歳の女性。調理中、衣服に火が燃え移り、胸腹部全体と左右上肢全体に 度+ 度の熱傷を受けた。 「9の法則」による正しい熱傷面積はどれか。 1. 18% 2. 27% 3. 36% 4. 45%	3	外科学概論

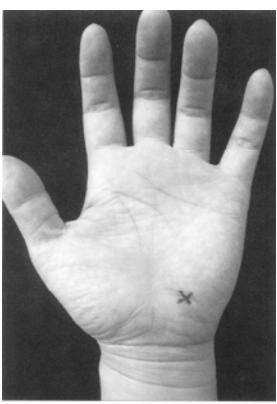
No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J166	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題46	正しい組合せはどれか。 1.丹毒 緑膿菌 2.毛囊炎 黄色ブドウ球菌 3.梅毒 ウエルシュ菌 4.ガス壊疽 破傷風菌	2	外科学概論
2007 J167	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題47	播種性転移はどれか。 1.胃癌のウィルヒヨウ転移 2.大腸癌の肝転移 3.胃癌のシニツツラー転移 4.前立腺癌の骨転移	3	外科学概論
2007 J168	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題48	経静脈的高力ロリー輸液について正しいのはどれか。 1.蛋白質の補給には主として血漿を用いる。 2.消化管の術後で長期間経口摂取できないときに行う。 3.輸液はまず50%糖液から始める。 4.末梢静脈から注入する。	2	外科学概論
2007 J169	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題49	誤っている組合せはどれか。 1.心臓穿刺 心タンポナーデの治療 2.胸腔穿刺 膽胸の治療 3.腹腔穿刺 大腸穿孔の治療 4.関節穿刺 関節水腫の治療	3	外科学概論
2007 J170	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題50	全身麻酔の前投薬で誤っているのはどれか。 1.気道分泌抑制薬 2.鎮痛薬 3.昇圧薬 4.鎮静薬	3	外科学概論
2007 J171	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題51	一次救命処置で誤っているのはどれか。 1.人工呼吸 2.自動体外式除細動器(AED) 3.保温 4.心臓マッサージ	3	外科学概論
2007 J172	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題52	顔面外傷で誤っている組合せはどれか。 1.鼻骨骨折 顔面神経麻痺 2.頸骨骨折 開口障害 3.耳介血腫 カリフラワー耳 4.上顎骨骨折 咬合異常	1	外科学概論
2007 J173	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題53	28歳の男性。オートバイ運転中に転倒、頭部を強く打撲した。受傷時一過性の意識障害があったが、その後意識清明となり普通に会話をしていた。6時間後に頭痛を訴え、次第に呼びかけに応じなくなった。 最も考えられるのはどれか。 1.脳挫傷 2.外傷性クモ膜下出血 3.急性硬膜外血腫 4.急性硬膜下血腫	3	外科学概論
2007 J174	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題54	腹膜炎でみられる反跳性圧痛はどれか。 1.ブルンベルグ徵候 2.グレイターナー徵候 3.クールボアジエ徵候 4.カレン徵候	1	外科学概論
2007 J175	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題55	良肢位について誤っている組合せはどれか。 1.手指 テニスボールを握った肢位 2.手関節 伸展(背屈)10~20度 3.股関節 屈曲45度、外転0~10度、外旋0~10度 4.肩関節 外転60~80度、内分廻し30度、外旋20度	3	整形外科学
2007 J176	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題56	ステロイド注射の禁忌はどれか。 1.変形性関節症 2.化膿性関節炎 3.痛風性関節炎 4.リウマチ性関節炎	2	整形外科学
2007 J177	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題57	7歳の男児。鉄棒から落ちて来院。エックス線写真で右上腕骨頸上骨折が認められた。右手関節の伸展(背屈)ができない。 合併症はどれか。 1.肘部管症候群 2.橈骨神経麻痺 3.手関節伸展(背屈)筋腱断裂 4.フォルクマン拘縮	2	整形外科学
2007 J178	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題58	正しいのはどれか。 1.軟骨無形成症は長管骨の骨幹端が強く障害される。 2.モルキオ(Morquio)症は常染色体優性遺伝である。 3.骨形成不全症は骨端軟骨に異常を認める。 4.大理石骨病は骨がもろく、骨折しやすい。	1or4	整形外科学

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J179	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題59	血行性化膿性骨髓炎の好発部位はどれか。 1. 骨端 2. 骨端軟骨 3. 骨幹端 4. 骨幹	3	整形外科学
2007 J180	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題60	悪性二次変化で軟骨肉腫が発生するのはどれか。 1. 線維性骨異形成症 2. 骨巨細胞腫 3. 孤立性骨囊腫 4. 多発性外骨腫	4	整形外科学
2007 J181	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題61	くる病の所見について誤っているのはどれか。 1. 骨端融解 2. 骨幹端拡大 3. 長管骨彎曲 4. 脊椎後彎	1	整形外科学
2007 J182	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題62	脊髓腫瘍の初発症状で最も頻度の高いのはどれか。 1. 歩行障害 2. 疼痛 3. 感覚障害 4. 膀胱障害	2	整形外科学
2007 J183	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題63	手根管症候群の症状はどれか。 1. 母指対立運動不能 2. 手指開閉運動不能 3. 手背感覚鈍麻 4. 小指球筋萎縮	1	整形外科学
2007 J184	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題64	大腿骨骨頭壊死の病因で誤っているのはどれか。 1. 肥満 2. ステロイド使用 3. 大腿骨頸部内側骨折 4. アルコール多飲	1	整形外科学
2007 J185	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題65	変形性膝関節症について誤っているのはどれか。 1. 内反変形 2. 動作開始時痛 3. 男性に好発 4. 屈曲拘縮	3	整形外科学
2007 J186	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題66	誤っているのはどれか。 1. 外傷性脱臼は青壮年に多い。 2. 反復性脱臼は頸関節にみられる。 3. 麻痺性脱臼は肩関節にみられる。 4. 習慣性脱臼は外傷後続発する。	4	柔道整復理論
2007 J187	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題67	脱臼の整復障害でないのはどれか。 1. 関節包の弛緩 2. ボタン穴機構 3. 軟部組織の介在 4. 支点となる骨の欠損	1	柔道整復理論
2007 J188	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題68	変換熱療法はどれか。2つ選べ。 1. 超短波療法 2. ホットパック療法 3. 超音波療法 4. 局所浴療法	13	柔道整復理論
2007 J189	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題69	鎖骨骨折について誤っているのはどれか。 1. 頭部を患側に傾ける。 2. 患側の肩を挙上する。 3. 患側の肩幅が狭くみえる。 4. 患肢を健側の手で保持する。	2	柔道整復理論
2007 J190	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題70	骨片転位と関わる筋との組合せで誤っているのはどれか。 1. 肩甲骨上角骨折 小円筋 2. 肩甲骨下角骨折 三角筋 3. 肩峰骨折 三角筋 4. 烏口突起骨折 小胸筋	1	柔道整復理論
2007 J191	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題71	上腕骨骨幹部骨折の三角筋付着部より近位骨片の転位に関与が少ないのはどれか。 1. 大胸筋 2. 大円筋 3. 小円筋 4. 広背筋	3	柔道整復理論
2007 J192	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題72	ガレアッチ(Galeazzi)骨折で正しいのはどれか。 1. 尺骨骨幹部の骨折である。 2. 尺骨脱臼を合併する。 3. 桡骨神経麻痺が多い。 4. 伸展型と屈曲型とに分類される。	2	柔道整復理論

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J193	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題73	橈尺両骨骨幹部骨折の後遺症でないのはどれか。 1.肘関節屈曲障害 2.偽関節 3.橋状仮骨 4.阻血性拘縮	1	柔道整復 理論
2007 J194	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題74	コレス(Colles)骨折の合併症でないのはどれか。 1.尺骨突き上げ症候群 2.反射性交感神経性ジストロフィー 3.離断性骨軟骨炎 4.手根管症候群	3	柔道整復 理論
2007 J195	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題75	手根骨骨折で発生頻度が高い部位は下記の図のうちどれか。 1.a 2.b 3.c 4.d	2	柔道整復 理論
2007 J196	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題76	中手骨骨幹部骨折で回旋転位が生じやすいのはどれか。2つ選べ。 1.第2中足骨 2.第3中足骨 3.第4中足骨 4.第5中足骨	14	柔道整復 理論
2007 J197	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題77	正しい組合せはどれか。 1.中手骨頸部骨折 掌側凸変形 2.基節骨骨幹部骨折 掌側凸変形 3.中節骨骨幹部骨折(浅指屈筋腱付着部より近位) 掌側凸変形 4.中節骨骨幹部骨折(浅指屈筋腱付着部より遠位) 背側凸変形	2	柔道整復 理論
2007 J198	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題78	マレットフィンガーで正しいのはどれか。 1.型はDIP関節を過伸展位で固定する。 2.型はDIP関節を屈曲位で固定する。 3.型はDIP関節を過伸展位で固定する。 4.型の固定期間は型より短い。	1	柔道整復 理論
2007 J199	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題79	誤っているのはどれか。 1.デュベルニー(Duverney)骨折は骨盤骨単独骨折の一つである。 2.デュベルニー(Duverney)骨折では腸骨翼骨片は上外方に転位する。 3.マルゲーヌ(Malgaigne)骨折は骨盤骨環骨折の一つである。 4.マルゲーヌ(Malgaigne)骨折では患側の棘果長は健側より長い。	4	柔道整復 理論
2007 J200	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題80	大腿骨頸部内側骨折で誤っているのはどれか。 1.転倒し大転子部を強打して受傷する。 2.総腓骨神経麻痺に注意する。 3.骨折線が垂直に近くなるほど骨癒合は良好である。 4.長期臥床による合併症に留意する。	3	柔道整復 理論
2007 J201	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題81	大腿骨骨幹部骨折で誤っているのはどれか。 1.中1/3部骨折が最も多い。 2.上1/3部骨折では近位骨片は屈曲・内転・内旋転位する。 3.下1/3部骨折での遠位骨片の後方転位は腓腹筋が関与する。 4.小児の治療では将来の過成長を考慮する。	2	柔道整復 理論
2007 J202	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題82	脛骨頸部骨折で誤っているのはどれか。 1.外顆骨折の合併症として腓骨頭骨折がある。 2.内顆骨折では外反膝変形がみられる。 3.外顆骨折では内側側副靭帯の断裂に注意する。 4.脛骨関節面の陥没程度が治療上重要である。	2	柔道整復 理論
2007 J203	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題83	下腿骨骨幹部両骨骨折で誤っているのはどれか。 1.中下1/3境界部に好発する。 2.直達外力による横骨折では両骨の骨折部はほぼ同高位となる。 3.介達外力による螺旋状骨折では脛骨骨折部が高位となる。 4.定型的骨折では骨折線は前内方から後外上方に走る。	3	柔道整復 理論
2007 J204	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題84	足根骨骨折で誤っているのはどれか。 1.最も頻度が高いのは踵骨骨折である。 2.距骨骨折では頸部骨折が最も多い。 3.ナウマン症候は踵骨骨折でみられる。 4.踵骨の鴨嘴状骨折はアキレス腱による剥離骨折である。	3	柔道整復 理論
2007 J205	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題85	脱臼とその分類との組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。 1.肩鎖関節脱臼 上方脱臼、前方脱臼、後方脱臼 2.胸鎖関節脱臼 後方脱臼、上方脱臼、下方脱臼 3.肩関節脱臼 前方脱臼、後方脱臼、下方脱臼、上方脱臼 4.前腕両骨脱臼 後方脱臼、前方脱臼、側方脱臼、開排脱臼	34	柔道整復 理論

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J206	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題86	肩鎖関節脱臼について誤っているのはどれか。 1. 鍼血的な処置は第1度損傷で適応となる。 2. 鎖骨外端骨折との鑑別が必要である。 3. 陳旧化になると鎖骨外端の肥大変形をみる。 4. 第1度損傷では烏口鎖骨韌帯は完全断裂している。	4	柔道整復理論
2007 J207	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題87	誤っている組合せはどれか。 1. 肩関節前方脱臼 腋窩神経損傷 2. 月状骨掌側脱臼 尺骨神経損傷 3. 股関節後方脱臼 坐骨神経損傷 4. 膝関節前方脱臼 脛骨神経損傷	2	柔道整復理論
2007 J208	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題88	肩関節脱臼の外観で上肢外転角度が最も大きいのはどれか。 1. 腋窩脱臼 2. 烏口下脱臼 3. 鎖骨下脱臼 4. 関節窓下脱臼	4	柔道整復理論
2007 J209	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題89	前腕両骨後方脱臼で誤っているのはどれか。 1. 青壯年期に比べて幼少年期に好発する。 2. 前腕長の短縮が認められる。 3. 前方関節包の損傷が認められる。 4. 後療法では自動運動を主体に行う。	1	柔道整復理論
2007 J210	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題90	肘内障で誤っているのはどれか。 1. 軽度の肘関節運動は可能である。 2. 肘関節過伸展強制で発生する。 3. 鑑別診断として鎖骨骨折が挙げられる。 4. 前腕の回外運動制限が認められる。	2	柔道整復理論
2007 J211	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題91	以下の図のうち徒手整復が最も困難なのはどれか。 1  2  3  4 	4	柔道整復理論
2007 J212	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題92	外傷性股関節後方脱臼で正しいのはどれか。 1. 股関節に過度伸展が強制されて発生する。 2. 患肢は伸展、外旋、外転位をとる。 3. 健側と比較して大腿は短縮してみえる。 4. スカルパ三角部に大腿骨頭を触れる。	3	柔道整復理論
2007 J213	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題93	外傷性膝蓋骨脱臼で正しいのはどれか。 1. 内側脱臼の発生頻度が高い。 2. 膝関節は完全伸展位をとる。 3. 股関節屈曲・膝関節伸展で整復する。 4. 膝関節屈曲位で固定する。	3	柔道整復理論
2007 J214	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題94	外傷性距腿関節脱臼で正しいのはどれか。2つ選べ。 1. 距骨の転位方向で分類される。 2. 下腿骨遠位端骨折を合併することはない。 3. 外側脱臼は足部に内転が強制されて発生する。 4. 後方脱臼では足は屈曲(底屈)位を呈する。	14	柔道整復理論
2007 J215	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題95	頸神経根の障害高位と症状の組合せで正しいのはどれか。 1. C5 上腕二頭筋腱反射減弱 2. C6 小指球筋の萎縮 3. C7 肩甲骨の挙上障害 4. C8 前腕外側部の感覺障害	1	柔道整復理論
2007 J216	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題96	神経症状を誘発する検査法でないのはどれか。 1. ラセーグ・テスト 2. ケンブ・テスト 3. ニュートン・テスト 4. スパーーリング・テスト	3	柔道整復理論

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J217	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題97	以下の図のうち末梢神経損傷の検査法でないのはどれか。 1 椅子を持ち上げる 2 左右に引く 3 遠位から叩打する 4	1	柔道整復 理論
2007 J218	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題98	野球肘障害でないのはどれか。 1. 離断性骨軟骨炎 2. 上腕骨外側上顆炎 3. 上腕骨内側上顆骨端核障害 4. 内側側副靱帯損傷	2	柔道整復 理論
2007 J219	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題99	誤っているのはどれか。 1. スワンネック変形は橈指変形に続発して起こる。 2. 強剛母指はIP関節伸展位、MP関節屈曲位を呈する。 3. ボタン穴変形はPIP関節掌側脱臼に続発して起こる。 4. 母指MP関節側副靱帯損傷は尺側に多い。	2	柔道整復 理論
2007 J220	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題100	図は何の検査か。 1. 内側側副靱帯損傷 2. 内側半月損傷 3. 前十字靱帯損傷 4. 後十字靱帯損傷	3	柔道整復 理論
2007 J221	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題101	6歳の男児。跳び箱から転落した際、左手掌を地面に強く衝き受傷し来所した。左肘関節部に著明な腫脹と変形、限局性圧痛を認めた。近医で診断を受けた。エックス線写真(別冊NO.1)を別に示す。 誤っているのはどれか。 1. 僞関節を形成しやすい。 2. 内反肘を呈することが多い。 3. 観血療法の絶対適応できる。 4. 遅発性尺骨神経麻痺を呈する。	2	柔道整復 理論

No. code	問題no	問題	解答	科目	
2007 J222	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題102	<p>53歳の女性。自宅にて階段降時、左手掌部を衝いて転倒し来所した。左手関節部に著明な変形は認められないが、腫脹や橈骨茎状突起の近位3cm部に限局性圧痛を認めた。直ちに整形外科でエックス線検査を行った。診察の結果、手指の運動制限や感覺障害もなく、3週のギプス固定が行われた。固定除去2週後に左母指IP関節の自動運動が不能となった。整形外科初診時のエックス線写真(別冊NO.2A)固定除去2週後の手指の写真(別冊NO.2B)を別に示す。</p> <p>最も考えられる合併症はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後骨間神経麻痺 2. 舟状骨骨折 3. 手根管症候群 4. 長母指伸筋腱断裂 		4	柔道整復理論
2007 J223	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題103	<p>56歳の男性。ゴルフのプレー中、クラブを地面に強く打ち付け左手の小指球部を負傷した。その後、様子をみていたが痛みが続くため来所した。限局性圧痛を認めた。写真(別冊NO.3)を別に示す。</p> <p>この圧痛点に該当する手根骨はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 月状骨 2. 豆状骨 3. 三角骨 4. 有鉤骨 		4	柔道整復理論
2007 J224	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題104	<p>16歳の男子。バレー部の練習後、自分で計画を立てランニング、ジャンプ、うさぎ跳び運動を道路と神社の階段で毎日行っていた。最近練習中に右下腿上部外側に疼痛と圧痛が現れたため来所した。</p> <p>最も考えられるのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腓骨疲労骨折 2. 腸脛靭帯炎 3. 腓腹筋部分断裂 4. 驚足炎 		1	柔道整復理論
2007 J225	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題105	<p>42歳の女性。右肘外側の自発痛と右前腕の倦怠感を訴え来所した。年末に大掃除をした際、雑巾をしばったり、重い荷物を持ち上げたりする時に痛みがでたという。肘関節の可動域制限、前腕の感覺障害はない。</p> <p>最も考えられるのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肘部管症候群 2. 肘関節遊離体 3. 上腕骨外側上顆炎 4. 变形性肘関節症 		3	柔道整復理論
2007 J226	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題106	<p>36歳の男性。ゴルフ歴10年。右利き。2か月前からクラブを振るときに左手関節尺側に疼痛が出現していた。最近はペットボトルのキャップを開け閉めする際にも痛みが出ると訴えて来所した。手関節の著明な可動域制限はなかった。同部に発赤や腫脹、変形は認めなかつたが、手関節尺屈位で軸圧を加えると疼痛が再現された。</p> <p>最も考えられるのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 月状骨軟化症 2. 尺骨茎状突起骨折 3. 遠位橈尺関節脱臼 4. 三角線維軟骨損傷 		4	柔道整復理論

No. code	問題no	問題	解答	科目
2007 J227	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題107	21歳の男性。大学陸上部の短距離選手。約3か月前に右下肢の筋損傷を起こし来所した。図は、練習前後に使うように指導した損傷筋のスタティックストレッチである。その内容は踵部を台の上にのせ、膝軽度屈曲位あるいは伸展位で体幹をゆっくり前屈させ、伸ばされている状態を約20秒継続する。 この筋損傷で正しいのはどれか。 1. 介達外力より直達外力による発生頻度が高い。 2. テニスレッグと呼ばれる損傷である。 3. 坐骨結節に起始する筋の損傷である。 4. RICE処置の中でCは禁忌である。	3	柔道整復 理論
2007 J228	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題108	17歳の女子。陸上競技部員。1か月前から長時間のランニング中に、左下腿前面部の疼痛や左足関節が十分に背屈できなくなり、足を引っかけて転倒しそうになることが多くみられた。最近では左足部の異常な感覚も併せて認められるようになった。ランニングを終え、しばらくすると痛みや感覚の異常、筋力の低下はみられない。 このランニング中に認められる足部の異常感覚を起こす固有領域はどこか。 1. 1 2. 2 3. 3 4. 4	1	柔道整復 理論
2007 J229	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題109	20歳の男性。サッカーの練習中、右足関節をねじり受傷。以前にも数回捻挫の既往がある。外果の前方に腫脹・圧痛がみられた。内反ストレス撮影では健側との差はわずかであったが、前方引き出し撮影では健側との差は著明であった。 最も考えられる損傷はどれか。 1. 前脛腓靭帯断裂 2. 前距腓靭帯断裂 3. 二分靭帯断裂 4. 前距腓靭帯および踵腓靭帯断裂	2	柔道整復 理論
2007 J230	第015回柔道整復師 平成19年(2007年) 【午後】問題110	14歳の女子。マラソン大会の練習に励んでいたが、右足内果部後方に痛みが出現したため来所した。図に示した疼痛部位に豆粒大の硬い膨隆を認め、圧迫すると激痛を訴えた。患者の両足は共に内側縦アーチの低下がみられ、患側の下腿 跟骨角は健側と比べて外反傾向が強かった。 この患者への対応として誤っているのはどれか。 1. 腓骨筋の筋力強化を指導した。 2. 内側縦アーチを持ち上げるアーチサポートを使用した。 3. ランニング専用のシューズを購入させた。 4. 下腿屈筋群のストレッチを指導した。	1	柔道整復 理論